

忠岡町
福祉に関するアンケート調査
集計結果報告書

令和 8 年 3 月

忠岡町

目 次

第 1 編 調査の概要	1
第 2 編 集計結果	2
第 1 章 障がい者用調査	2
第 1 節 性別・年齢・障がいの状況などについて	2
第 2 節 日常生活の状況について	11
第 3 節 日中活動や仕事について	18
第 4 節 外出について	21
第 5 節 障がい福祉サービスの利用について	23
第 6 節 相談や情報について	31
第 7 節 社会への啓発について	33
第 8 節 地域での生活について	34
第 2 章 子ども用調査	37
第 1 節 性別・年齢・障がいの状況などについて	37
第 2 節 介助・支援の状況について	43
第 3 節 就園・就学の状況について	48
第 4 節 福祉サービスや情報・相談について	51
第 5 節 地域での暮らしについて	55
第 3 編 自由意見	57
第 1 章 自由意見のまとめ	57
第 2 章 障がい者用調査での意見	58
第 3 章 子ども用調査での意見	68

第1編 調査の概要

1 調査の概要

忠岡町では、令和8年度に、新しい障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画を策定します。福祉に関するアンケート調査は、町内の障がい者と、発達・発育に不安のある子どもを対象に、生活状況や施策ニーズをお聞きし、これらの計画の策定にあたっての基礎資料とするために実施しました。

2 調査期間

令和8年2月

3 調査方法と配布・回収数

調査は、以下の2種の調査票で郵送により実施しました。配布・回収数は表のとおりです。

調査票の種類	対象	配布数	回収数	回収率
障がい者用調査	19歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者及び精神通院自立支援医療の受給者)	1,098	505	46.0%
子ども用調査	18歳以下の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者及び障害児通所支援利用者	170	77	45.2%

4 留意点

- 設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「合計」が全体より少なくなっています。
- 設問には1つのみ答えるものと複数回答のものがあり、複数回答の設問では、表記の割合の合計は100%を超えます。
- 割合は選択肢ごとに小数第1位以下を四捨五入して整数表記しているため、その割合の合計は100%にならないところがあります。

5 集計表の見方の例

問 23 あなたは、現在利用している障がい福祉サービスについて、どの程度満足していますか。(○は1つ)

回答者 505 人の所持手帳別の内訳です。障がいの内容により、福祉サービスへのニーズが変わることから、区分して集計しています。

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. とても満足している	41	8%	13	5%	4	8%	11	17%	7	13%
2. おおむね満足している	151	30%	62	24%	25	48%	23	36%	22	42%
3. やや不満である	22	4%	10	4%	3	6%	2	3%	3	6%
4. とても不満である	8	2%	5	2%	2	4%	1	2%	0	0%
5. サービスを利用していない	226	45%	131	51%	15	29%	24	38%	15	28%
無回答	57	11%	36	14%	3	6%	3	5%	6	11%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

1つを答える質問のため、無回答者を含め、総計は 505 人、割合は 100%になります。ただし、四捨五入の関係で、割合を縦に足すと、99%や 101%になっている表や図（グラフ）があります。

問 23-1 不満と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 通いやすい場所に事業所がない	5	17%	2	13%	0	0%	2	67%	0	0%
2. 希望する曜日や時間に利用できない	5	17%	1	7%	2	40%	1	33%	0	0%
3. 本人の希望を尊重してもらえない	6	20%	2	13%	1	20%	1	33%	0	0%
4. 家族の意向を尊重してもらえない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5. 職員の知識や経験が不足している	10	33%	3	20%	2	40%	1	33%	1	33%
6. プライバシーの配慮に欠ける	7	23%	1	7%	1	20%	1	33%	1	33%
7. 利用者負担が高い	5	17%	2	13%	1	20%	1	33%	0	0%
8. 引き受けてくれる事業所が見つからない	5	17%	2	13%	0	0%	2	67%	0	0%
9. その他	3	10%	1	7%	1	20%	1	33%	0	0%
無回答	27	90%	14	93%	4	80%	2	67%	3	100%
合計	30	100%	15	100%	5	100%	3	100%	3	100%

問 23-1 は、問 23 で「3. やや不満である。」または、「4. とても不満である。」と回答した 30 人だけが回答しています。

複数の選択肢に回答している人がいるので、割合の合計は 100%を超えます。

第2編 集計結果

障がい者用調査の集計結果は、以下のとおりです。

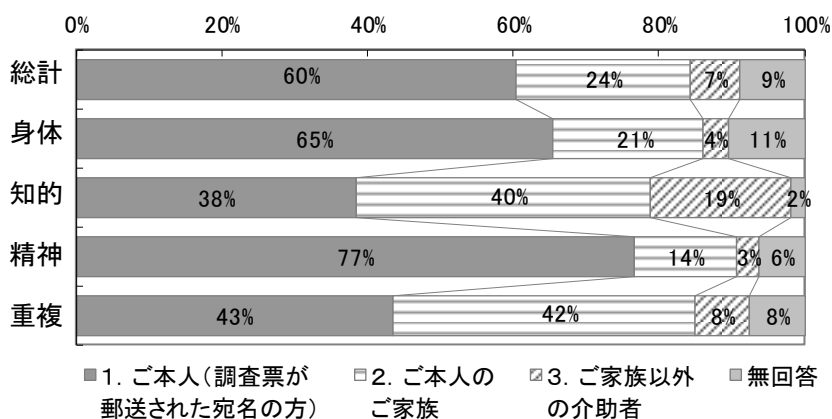
後述の問5・7・8の障害者手帳の種類等により、身体障がい者（257人）、知的障がい者（52人）、精神障がい者（64人）、複数の手帳を所持する重複障がい者（53人）、区分できない方（79人）に分け、障がい区分別クロス表を掲載します。

第1章 障がい者用調査

第1節 性別・年齢・障がいの状況などについて

問1 お答えいただくのは、どなたですか。（〇は1つ）

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ご本人 （調査票が郵送された宛名の方）	305	60%	168	65%	20	38%	49	77%	23	43%
2. ご本人のご家族	121	24%	53	21%	21	40%	9	14%	22	42%
3. ご家族以外の介助者	34	7%	9	4%	10	19%	2	3%	4	8%
無回答	45	9%	27	11%	1	2%	4	6%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



回答者は、全体では「ご本人」が60%となっており、知的障がい者や重複障がい者では、「ご本人の家族」および「ご家族以外の介助者」の回答も多くなっています。

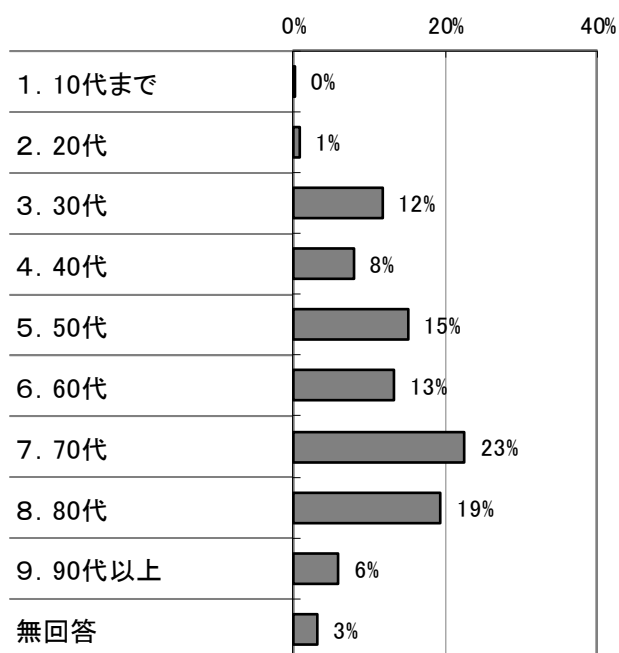
問2 性別・年齢をお答えください。(○は1つ・数値を記入)

〔性別〕

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 男性	245	49%	116	45%	35	67%	33	52%	32	60%
2. 女性	251	50%	140	54%	16	31%	29	45%	20	38%
3. 答えたくない	3	1%	0	0%	0	0%	2	3%	1	2%
無回答	6	1%	1	0%	1	2%	0	0%	0	0%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

〔年齢〕

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 10代まで	1	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
2. 20代	4	1%	1	0%	2	4%	0	0%	0	0%
3. 30代	59	12%	5	2%	20	38%	14	22%	11	21%
4. 40代	40	8%	7	3%	8	15%	13	20%	6	11%
5. 50代	76	15%	20	8%	11	21%	20	31%	13	25%
6. 60代	67	13%	36	14%	6	12%	9	14%	9	17%
7. 70代	114	23%	81	32%	3	6%	4	6%	8	15%
8. 80代	98	19%	77	30%	0	0%	2	3%	3	6%
9. 90代以上	30	6%	20	8%	1	2%	0	0%	3	6%
無回答	16	3%	10	4%	1	2%	1	2%	0	0%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

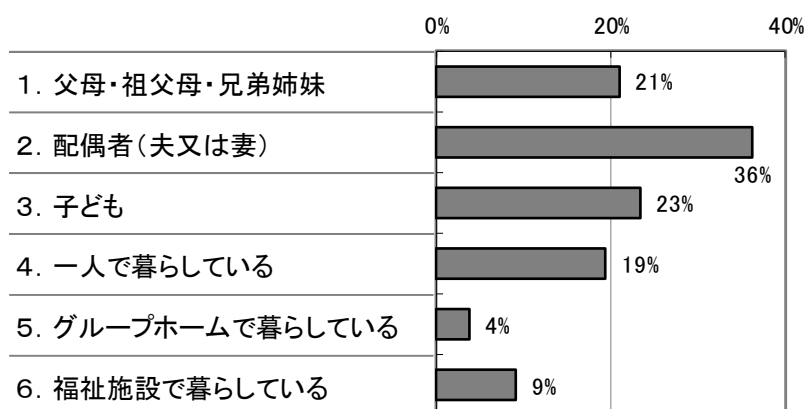


性別は、男性と女性がおおむね半数ずつという状況です。

また年齢は 70 代、80 代が多くなっていますが、知的障がい者では 30 代と 50 代、精神障がい者では 50 代が最も多くなっています。

問3 現在、一緒に暮らしている人は、どなたですか。(〇はいくつでも)

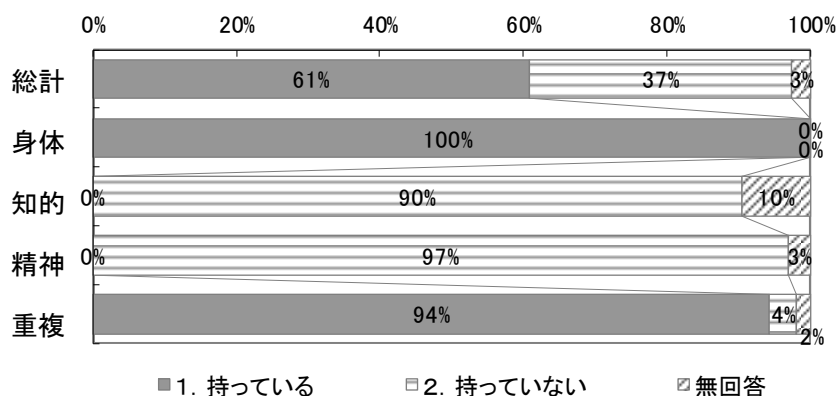
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 父母・祖父母・兄弟姉妹	106	21%	17	7%	26	50%	27	42%	20	38%
2. 配偶者（夫又は妻）	183	36%	127	49%	6	12%	13	20%	16	30%
3. 子ども	118	23%	78	30%	5	10%	12	19%	7	13%
4. 一人で暮らしている	98	19%	57	22%	4	8%	12	19%	10	19%
5. グループホームで暮らしている	19	4%	4	2%	5	10%	3	5%	5	9%
6. 福祉施設で暮らしている	46	9%	14	5%	9	17%	3	5%	6	11%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



一緒に暮らしている人は、「配偶者（夫又は妻）」が36%など表のとおりです。一人暮らしは、身体障がい者、精神障がい者、重複障がい者でそれぞれ約2割にのぼります。

問4 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

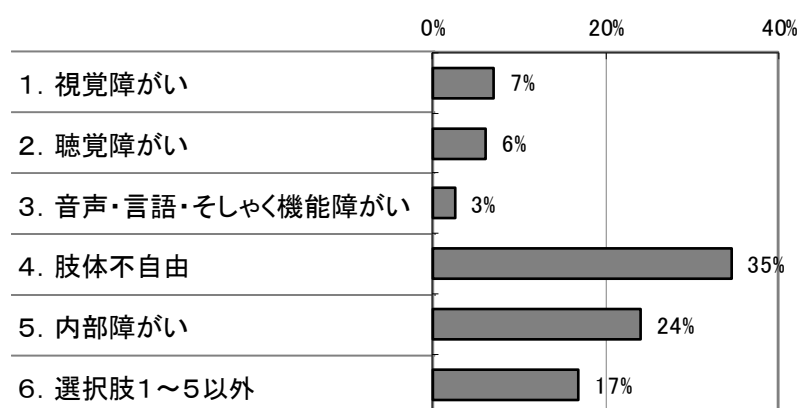
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	307	61%	257	100%	0	0%	0	0%	50	94%
2. 持っていない	185	37%	0	0%	47	90%	62	97%	2	4%
無回答	13	3%	0	0%	5	10%	2	3%	1	2%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



身体障害者手帳は、61%が「持っている」と回答しています。

問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、主な障がいをお答えください。(○は1つだけ)

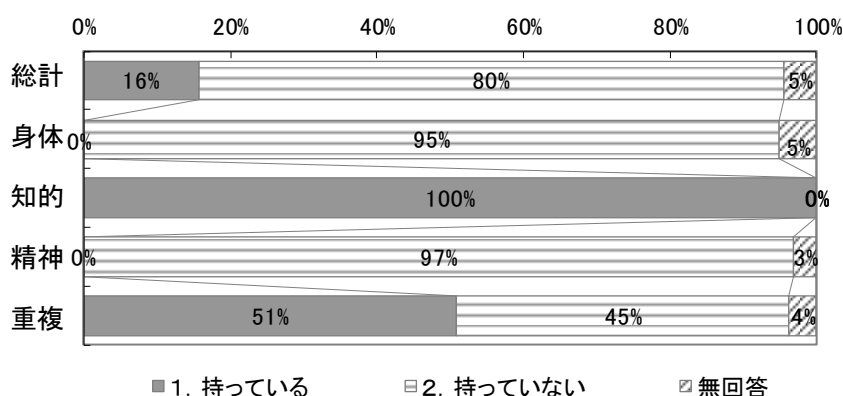
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 視覚障がい	22	7%	18	7%	0	0%	0	0%	4	8%
2. 聴覚障がい	19	6%	16	6%	0	0%	0	0%	3	6%
3. 音声・言語・そしゃく機能障がい	8	3%	5	2%	0	0%	0	0%	3	6%
4. 肢体不自由	106	35%	98	38%	0	0%	0	0%	8	16%
5. 内部障がい	74	24%	72	28%	0	0%	0	0%	2	4%
6. 選択肢1～5以外	52	17%	32	12%	0	0%	0	0%	20	40%
無回答	26	8%	16	6%	0	0%	0	0%	10	20%
合計	307	100%	257	100%	0	100%	0	100%	50	100%



身体障がいの主な部位は、「肢体不自由」が35%で最も多く、次いで「内部障がい」が24%です。

問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つ)

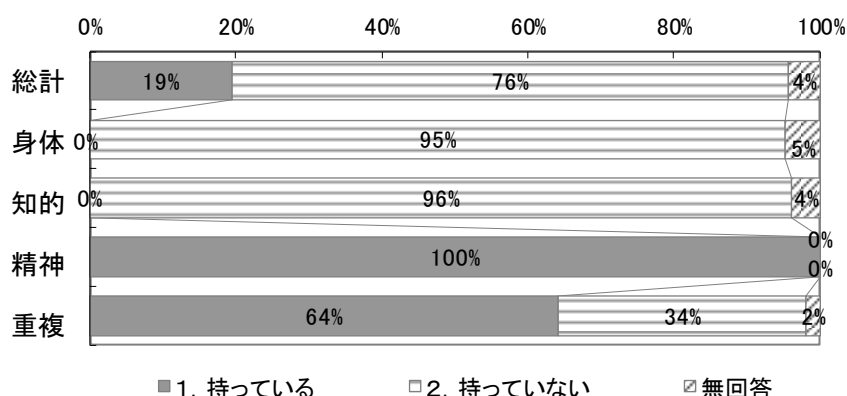
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	79	16%	0	0%	52	100%	0	0%	27	51%
2. 持っていない	403	80%	244	95%	0	0%	62	97%	24	45%
無回答	23	5%	13	5%	0	0%	2	3%	2	4%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



療育手帳は、16%が「持っている」と回答しています。

問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

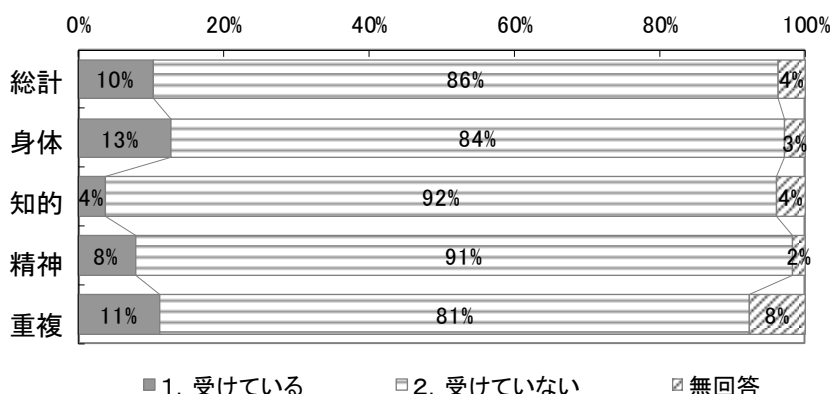
	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	98	19%	0	0%	0	0%	64	100%	34	64%
2. 持っていない	385	76%	245	95%	50	96%	0	0%	18	34%
無回答	22	4%	12	5%	2	4%	0	0%	1	2%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



精神障害者保健福祉手帳は、19%が「持っている」と回答しています。

問8 あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。(〇は1つ)

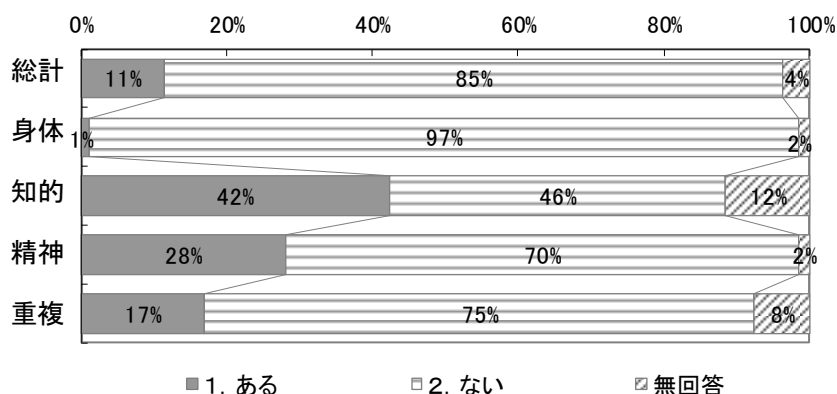
	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 受けている	52	10%	33	13%	2	4%	5	8%	6	11%
2. 受けていない	435	86%	217	84%	48	92%	58	91%	43	81%
無回答	18	4%	7	3%	2	4%	1	2%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



難病の認定は、10%が「受けている」と回答しています。

問9 あなたは医療機関で発達障がいと診断をされたことがありますか。(〇は1つ)

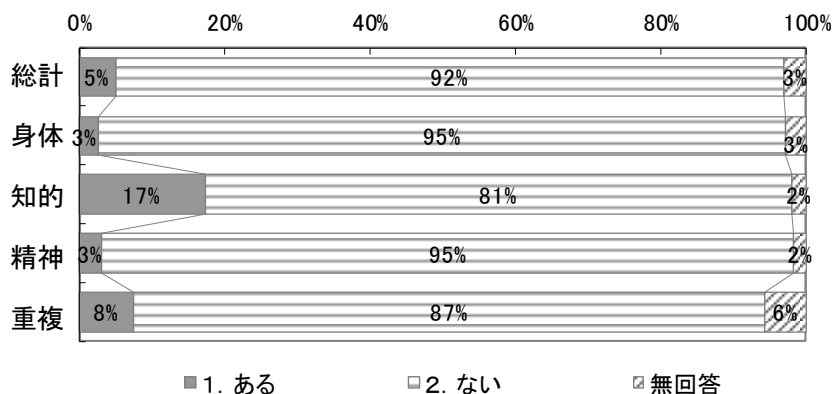
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ある	58	11%	3	1%	22	42%	18	28%	9	17%
2. ない	428	85%	250	97%	24	46%	45	70%	40	75%
無回答	19	4%	4	2%	6	12%	1	2%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



発達障害の診断については、11%が診断されたことが「ある」と回答しています。知的障がい者では42%が「ある」と回答しています。

問10 強度行動障がい（極端な固執行動など）がありますか。(〇は1つ)

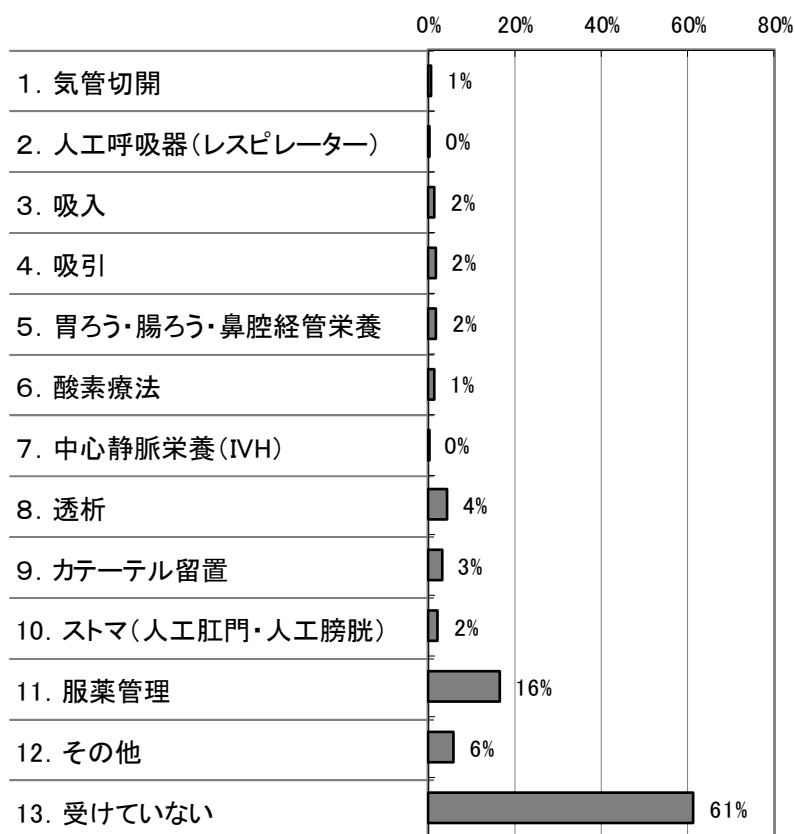
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ある	25	5%	7	3%	9	17%	2	3%	4	8%
2. ない	465	92%	243	95%	42	81%	61	95%	46	87%
無回答	15	3%	7	3%	1	2%	1	2%	3	6%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



強度行動障がいは、5%が「ある」と回答しています。
知的障がい者では17%が「ある」と回答しています。

問11 現在、あなたは、以下のような医療ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)

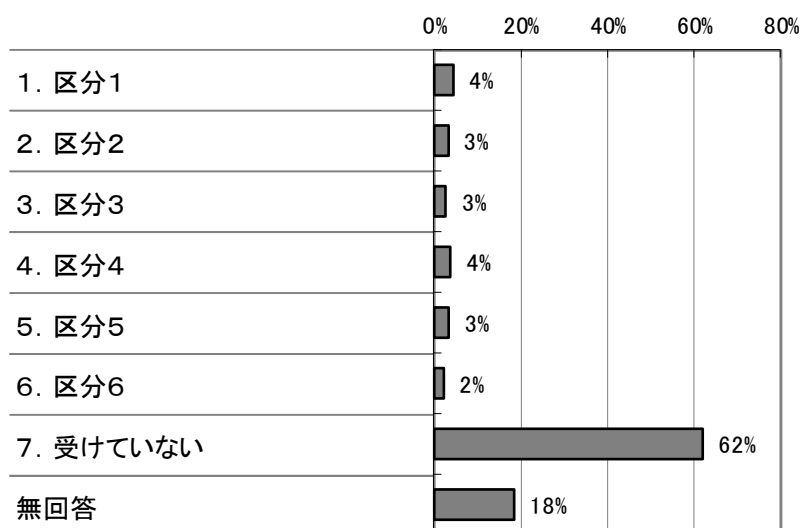
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 気管切開	4	1%	2	1%	0	0%	0	0%	2	4%
2. 人工呼吸器（レスピレーター）	2	0%	1	0%	0	0%	0	0%	1	2%
3. 吸入	8	2%	4	2%	0	0%	0	0%	4	8%
4. 吸引	9	2%	5	2%	0	0%	0	0%	3	6%
5. 胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養	10	2%	6	2%	0	0%	1	2%	2	4%
6. 酸素療法	7	1%	7	3%	0	0%	0	0%	0	0%
7. 中心静脈栄養（IVH）	1	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8. 透析	22	4%	20	8%	0	0%	0	0%	1	2%
9. カテーテル留置	16	3%	11	4%	0	0%	1	2%	1	2%
10. ストマ（人工肛門・人工膀胱）	12	2%	10	4%	0	0%	0	0%	2	4%
11. 服薬管理	83	16%	41	16%	7	13%	7	11%	13	25%
12. その他	30	6%	20	8%	2	4%	3	5%	0	0%
13. 受けていない	310	61%	143	56%	41	79%	46	72%	30	57%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



医療ケアは、「受けていない」が61%と最も多いですが、ケアを受けているものでは、「服薬管理」が16%で最も多く、次いで「透析」が4%です。

問 12 障がい支援区分の認定を受けていますか。(○は1つ)

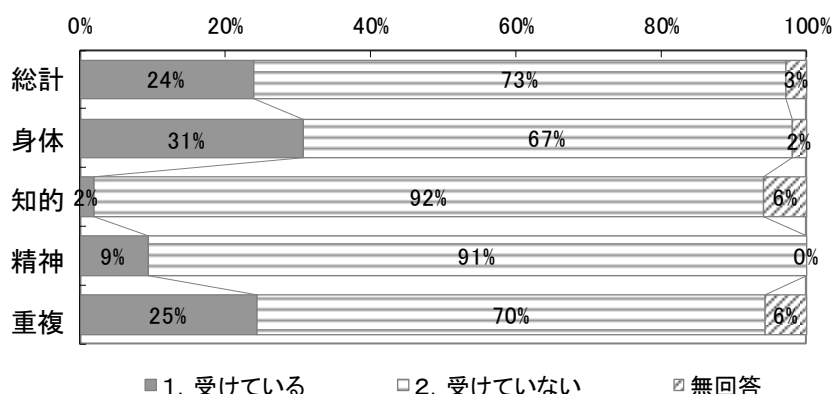
	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 区分1	22	4%	19	7%	0	0%	0	0%	1	2%
2. 区分2	16	3%	5	2%	1	2%	4	6%	4	8%
3. 区分3	14	3%	1	0%	7	13%	4	6%	1	2%
4. 区分4	19	4%	9	4%	4	8%	1	2%	5	9%
5. 区分5	17	3%	8	3%	6	12%	1	2%	2	4%
6. 区分6	11	2%	6	2%	3	6%	0	0%	1	2%
7. 受けていない	313	62%	156	61%	22	42%	46	72%	25	47%
無回答	93	18%	53	21%	9	17%	8	13%	14	26%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



障がい支援区分の認定は、「区分1」が4%、「区分2」が3%など表のとおりです。

問 13 あなたは介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

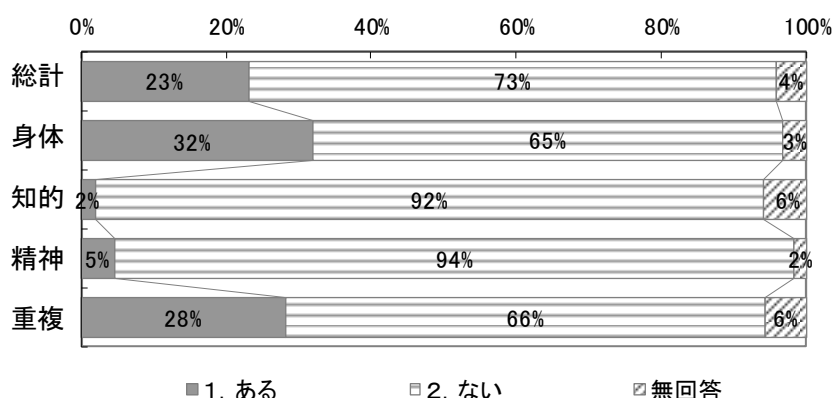
	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 受けている	121	24%	79	31%	1	2%	6	9%	13	25%
2. 受けていない	370	73%	173	67%	48	92%	58	91%	37	70%
無回答	14	3%	5	2%	3	6%	0	0%	3	6%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



要介護認定は、
24%が「受けてい
る」と回答してい
ます。

問 14 生活の中で利用中の機品や装具（呼吸器・補聴器・車いす・蓄便袋等）はありますか。(○は1つ)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ある	117	23%	82	32%	1	2%	3	5%	15	28%
2. ない	367	73%	167	65%	48	92%	60	94%	35	66%
無回答	21	4%	8	3%	3	6%	1	2%	3	6%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



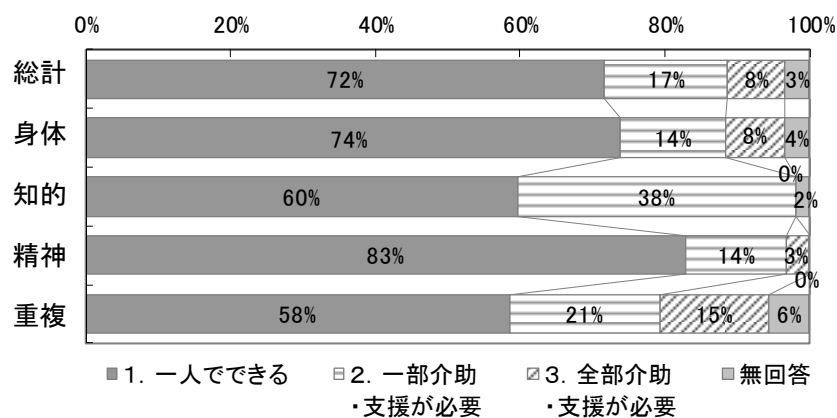
生活の中で利用中の機品や装具（呼吸器・補聴器・車いす・蓄便袋等）が「ある」と答えたのは23%でした。

第2節 日常生活の状況について

問15 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。(それぞれ○は1つ)

① 食事・トイレ・入浴などの生活動作

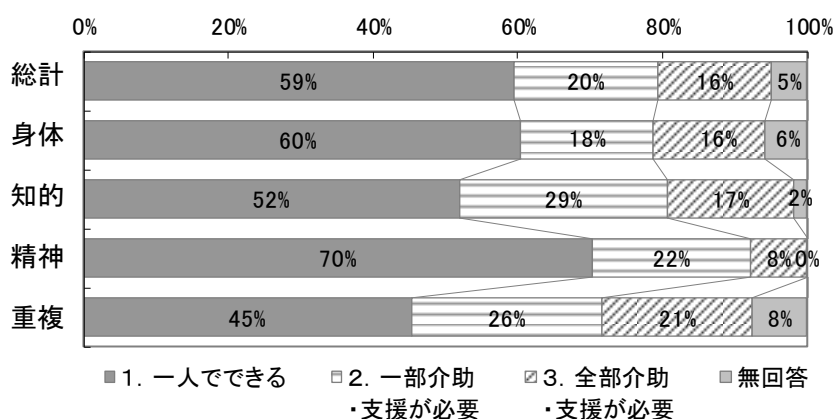
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行える	362	72%	190	74%	31	60%	53	83%	31	58%
2. 一部介助・支援が必要	86	17%	37	14%	20	38%	9	14%	11	21%
3. 全部介助・支援が必要	40	8%	21	8%	0	0%	2	3%	8	15%
無回答	17	3%	9	4%	1	2%	0	0%	3	6%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



食事・トイレ・入浴などの生活動作の要介助者は、「全部介助」「一部介助」をあわせて25%です。

② 外出

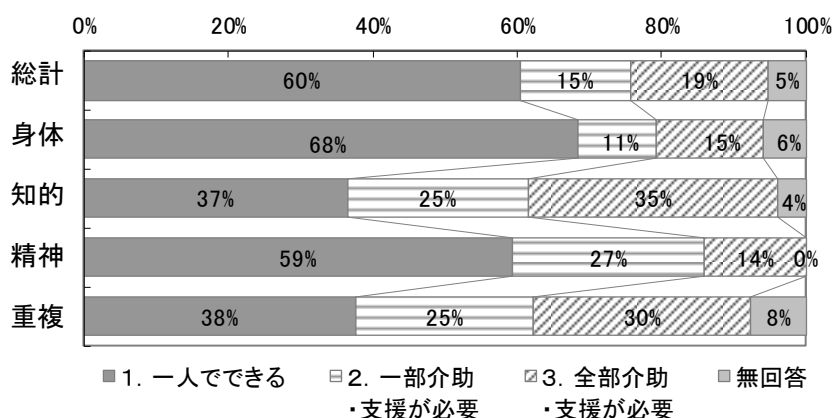
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行える	300	59%	155	60%	27	52%	45	70%	24	45%
2. 一部介助・支援が必要	101	20%	47	18%	15	29%	14	22%	14	26%
3. 全部介助・支援が必要	79	16%	40	16%	9	17%	5	8%	11	21%
無回答	25	5%	15	6%	1	2%	0	0%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



外出の要介助者は、「全部介助」「一部介助」をあわせて36%です。

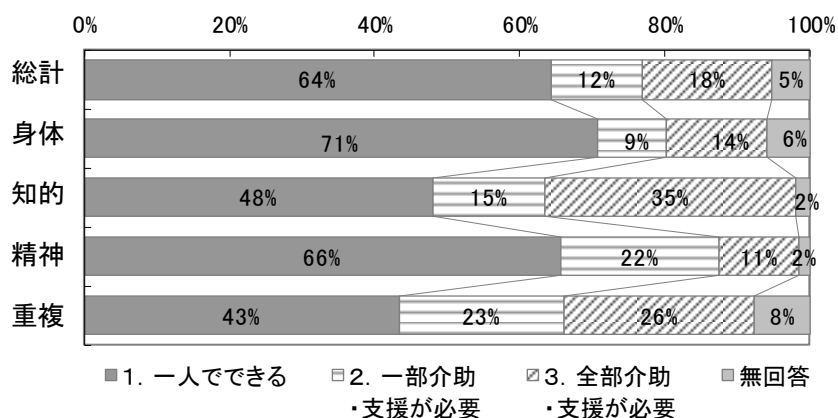
③ お金の管理

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行える	305	60%	176	68%	19	37%	38	59%	20	38%
2. 一部介助・支援が必要	77	15%	28	11%	13	25%	17	27%	13	25%
3. 全部介助・支援が必要	97	19%	38	15%	18	35%	9	14%	16	30%
無回答	26	5%	15	6%	2	4%	0	0%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



④ 薬の管理

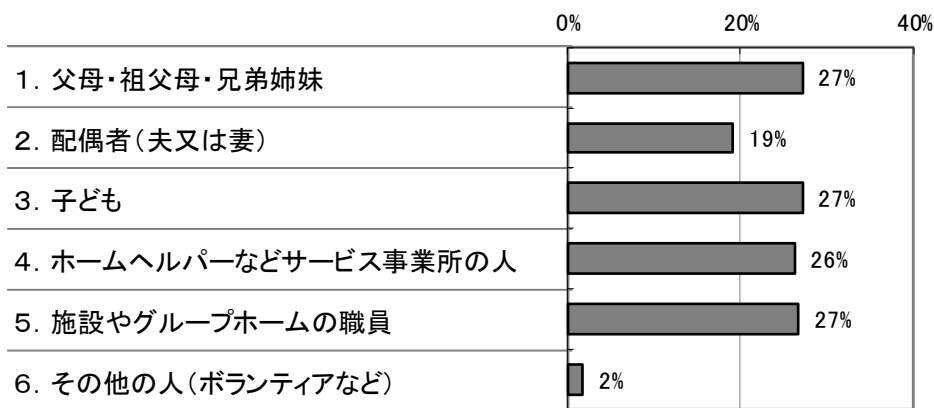
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行える	325	64%	182	71%	25	48%	42	66%	23	43%
2. 一部介助・支援が必要	63	12%	24	9%	8	15%	14	22%	12	23%
3. 全部介助・支援が必要	91	18%	36	14%	18	35%	7	11%	14	26%
無回答	26	5%	15	6%	1	2%	1	2%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



【問 15 で「2 一部介助が必要」又は「3 全部介助が必要」とお答えの方】

問 16 介助してくれる方は主に誰ですか。(〇はいくつでも)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 父母・祖父母・兄弟姉妹	61	27%	9	9%	20	59%	16	48%	12	35%
2. 配偶者（夫又は妻）	43	19%	25	26%	1	3%	6	18%	8	24%
3. 子ども	61	27%	44	46%	0	0%	5	15%	3	9%
4. ホームヘルパーなどサービス事業所 の人	59	26%	29	31%	2	6%	9	27%	7	21%
5. 施設やグループホームの職員	60	27%	18	19%	16	47%	3	9%	11	32%
6. その他の人（ボランティアなど）	4	2%	1	1%	1	3%	1	3%	0	0%
合計	225	100%	95	100%	34	100%	33	100%	34	100%



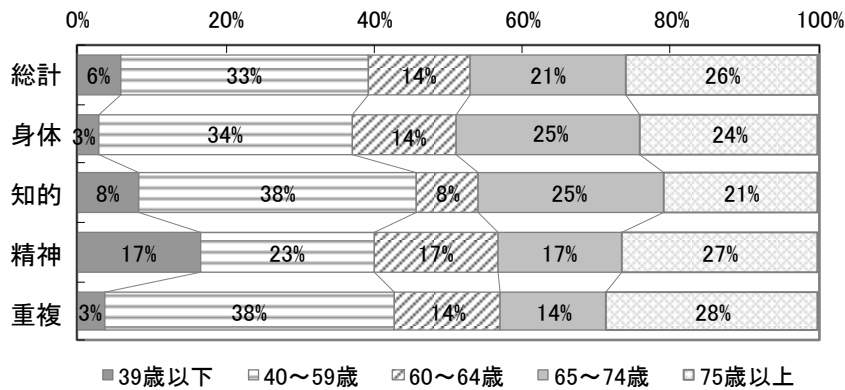
介助者は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」と「子ども」、「施設やグループホームの職員」が27%と最も多い状況です。

【問 16 で「1」～「3」とお答えの方】

問 17 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方の年齢などをお答えください。

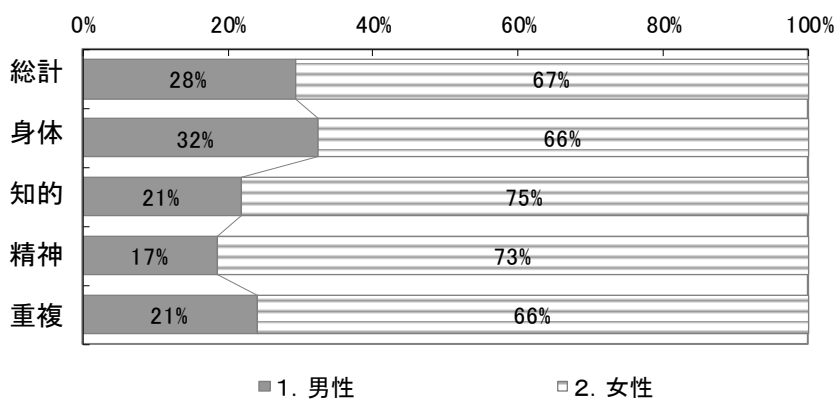
①年齢

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 19 歳以下	1	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
2. 20～39 歳	11	5%	3	3%	2	8%	4	13%	1	3%
3. 40～59 歳	68	33%	34	34%	9	38%	7	23%	11	38%
4. 60～64 歳	28	14%	14	14%	2	8%	5	17%	4	14%
5. 65～74 歳	43	21%	25	25%	6	25%	5	17%	4	14%
6. 75 歳以上	53	26%	24	24%	5	21%	8	27%	8	28%
合計	206	100%	101	100%	24	100%	30	100%	29	100%



②性別

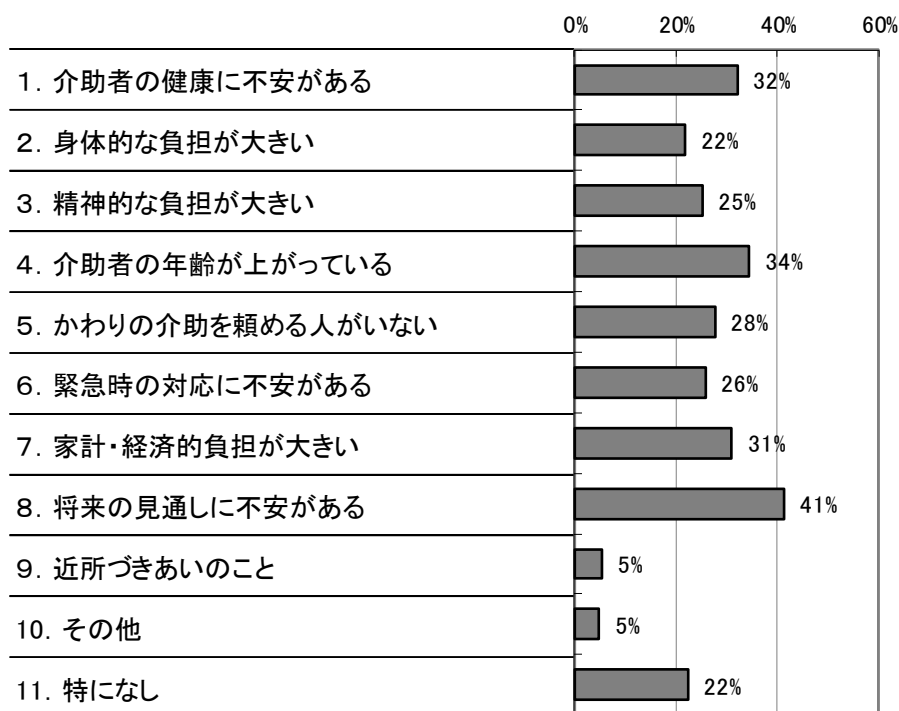
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 男性	57	28%	32	32%	5	21%	5	17%	6	21%
2. 女性	138	67%	67	66%	18	75%	22	73%	19	66%
3. 答えたくない	7	3%	0	0%	0	0%	3	10%	3	10%
合計	206	100%	101	100%	24	100%	30	100%	29	100%



介護者の年齢は「40～59 歳」が多く、性別は女性が多くなっています。

③あなたが介助者に対して悩んだり、不安に感じていることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

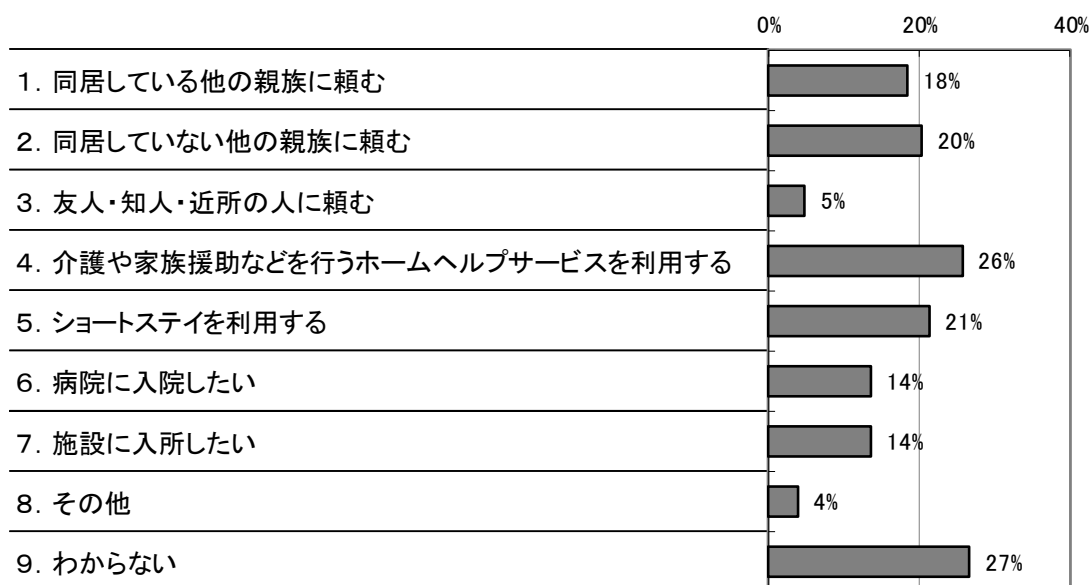
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 介助者の健康に不安がある	66	32%	35	35%	5	21%	7	23%	10	34%
2. 身体的な負担が大きい	45	22%	22	22%	5	21%	4	13%	5	17%
3. 精神的な負担が大きい	52	25%	18	18%	9	38%	9	30%	9	31%
4. 介助者の年齢が上がっている	71	34%	38	38%	8	33%	8	27%	8	28%
5. かわりの介助を頼める人がいない	57	28%	27	27%	4	17%	13	43%	7	24%
6. 緊急時の対応に不安がある	53	26%	32	32%	5	21%	6	20%	5	17%
7. 家計・経済的負担が大きい	64	31%	28	28%	9	38%	9	30%	11	38%
8. 将来の見通しに不安がある	85	41%	37	37%	12	50%	14	47%	14	48%
9. 近所づきあいのこと	11	5%	7	7%	3	13%	0	0%	0	0%
10. その他	10	5%	6	6%	2	8%	0	0%	1	3%
11. 特になし	46	22%	22	22%	7	29%	8	27%	6	21%
合計	206	100%	101	100%	24	100%	30	100%	29	100%



介助者についての悩みは、「将来の見通しに不安がある」が41%で最も多く、次いで「介助者の年齢が上がっている」が34%、「介助者の健康に不安がある」が32%、「家計・経済的負担が大きい」が31%と続きます。

④普段、主に介助・支援を行っている方（問17で回答した方）が介助・支援をできないとき、どのようにしたいと思いますか（あてはまるものすべてに○）

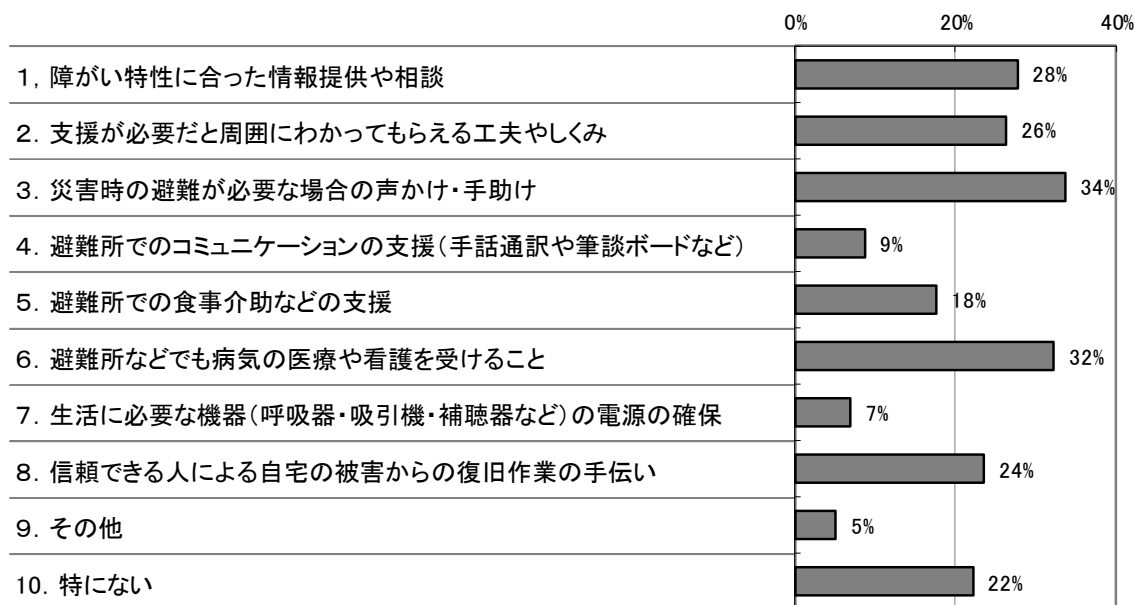
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 同居している他の親族に頼む	38	18%	16	16%	7	29%	6	20%	7	24%
2. 同居していない他の親族に頼む	42	20%	29	29%	5	21%	3	10%	3	10%
3. 友人・知人・近所の人に頼む	10	5%	6	6%	2	8%	2	7%	0	0%
4. 介護や家族援助などを行うホームヘルプサービスを利用する	53	26%	32	32%	5	21%	7	23%	2	7%
5. ショートステイを利用する	44	21%	28	28%	6	25%	4	13%	3	10%
6. 病院に入院したい	28	14%	19	19%	1	4%	2	7%	4	14%
7. 施設に入所したい	28	14%	15	15%	3	13%	1	3%	6	21%
8. その他	8	4%	3	3%	1	4%	1	3%	2	7%
9. わからない	55	27%	19	19%	7	29%	14	47%	8	28%
合計	206	100%	101	100%	24	100%	30	100%	29	100%



主な介助者が介護できないときの意向は、「介護や家事援助などを行う、ホームヘルプサービスを利用する」が26%と最も多くなっています。あとは、「ショートステイを利用する」（21%）、「同居していない他の親族に頼む」（20%）と続いています。また、「施設に入所したい」（14%）、「病院に入院したい」（14%）など入所・入院に頼りたいという意向もみられました。

問 18 あなたにとって、災害時に、必要な支援は何ですか。(〇はいくつでも)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 障がい特性に合った情報提供や相談	140	28%	64	25%	18	35%	31	48%	17	32%
2. 支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫やしくみ	133	26%	59	23%	22	42%	22	34%	16	30%
3. 災害時の避難が必要な場合の声かけ・手助け	170	34%	95	37%	19	37%	23	36%	16	30%
4. 避難所でのコミュニケーションの支援(手話通訳や筆談ボードなど)	44	9%	26	10%	4	8%	8	13%	4	8%
5. 避難所での食事介助などの支援	89	18%	49	19%	8	15%	13	20%	7	13%
6. 避難所などでも病気の医療や看護を受けること	163	32%	94	37%	7	13%	29	45%	15	28%
7. 生活に必要な機器(呼吸器・吸引機・補聴器など)の電源の確保	35	7%	21	8%	2	4%	3	5%	3	6%
8. 信頼できる人による自宅の被害からの復旧作業の手伝い	119	24%	68	26%	10	19%	20	31%	9	17%
9. その他	26	5%	11	4%	2	4%	4	6%	2	4%
10. 特にない	112	22%	45	18%	17	33%	13	20%	15	28%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



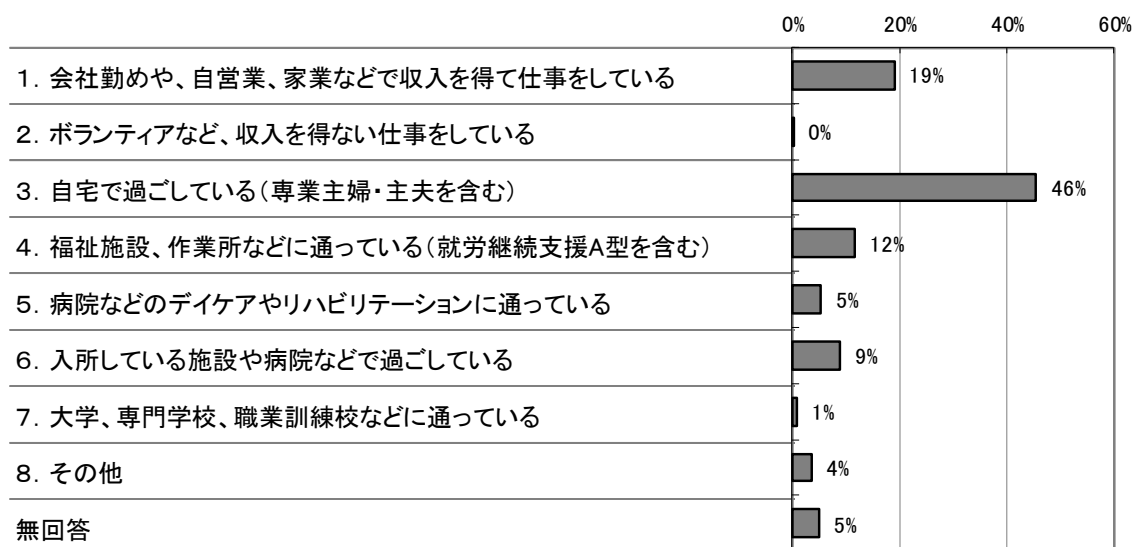
災害時に必要な支援では、「災害時の避難が必要な場合の声かけ・手助け」が 34%と最も多く、次いで「避難所などでも病気の医療や看護を受けること」が 32%でした。

障がい別にみると、知的障がい者では、「支援が必要だと周囲にわかってもらえる工夫やしくみ」が、精神障がい者では、「障がい特性に合った情報提供や相談」、「避難所などでも病気の医療や看護を受けること」の割合が他の層より高い傾向がみられます。

第3節 日中活動や仕事について

問19 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	96	19%	44	17%	14	27%	13	20%	7	13%
2. ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3. 自宅で過ごしている(専業主婦・主夫を含む)	230	46%	147	57%	9	17%	29	45%	14	26%
4. 福祉施設、作業所などに通っている(就労継続支援A型を含む)	59	12%	9	4%	19	37%	14	22%	11	21%
5. 病院などのデイケアやリハビリテーションに通っている	27	5%	18	7%	2	4%	2	3%	5	9%
6. 入所している施設や病院などで過ごしている	45	9%	15	6%	6	12%	4	6%	5	9%
7. 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	4	1%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
8. その他	18	4%	10	4%	2	4%	0	0%	4	8%
無回答	25	5%	14	5%	0	0%	1	2%	7	13%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



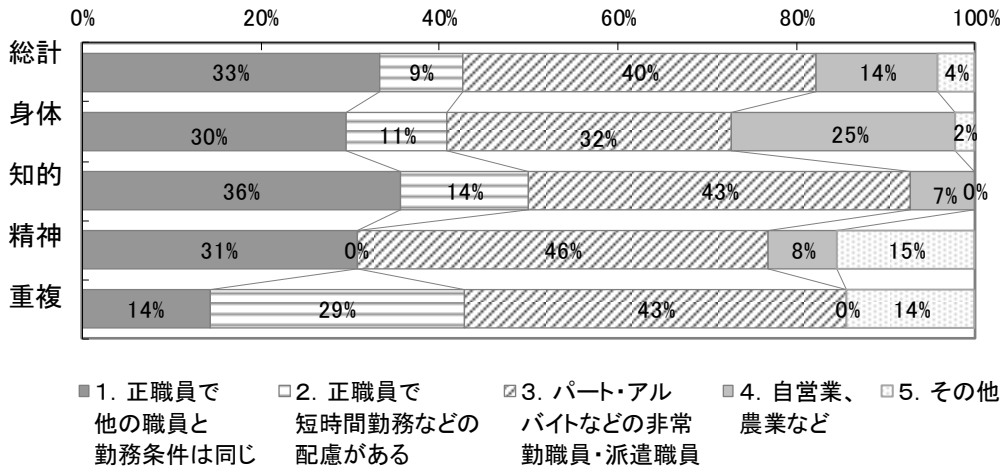
日中の活動場所は、「自宅で過ごしている」が46%と多い状況です。

障がい別では、身体障がい者、精神障がい者、重複障がい者が「自宅で過ごしている」という回答が最も多く、知的障がい者は「福祉施設、作業所などに通っている(就労継続支援A型を含む)」が最も多くなっています。

【問 19 で「1（収入を得て仕事をしている）」とお答えの方】

問 19-1 どのような勤務形態で働いていますか。（○は1つだけ）

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 正職員で他の職員と勤務条件は同じ	32	33%	13	30%	5	36%	4	31%	1	14%
2. 正職員で短時間勤務などの配慮がある	9	9%	5	11%	2	14%	0	0%	2	29%
3. パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員	38	40%	14	32%	6	43%	6	46%	3	43%
4. 自営業、農業など	13	14%	11	25%	1	7%	1	8%	0	0%
5. その他	4	4%	1	2%	0	0%	2	15%	1	14%
無回答	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	96	100%	44	100%	14	100%	13	100%	7	100%

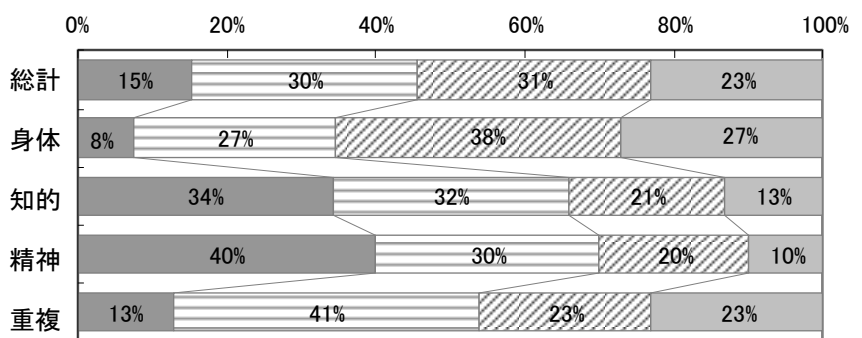


就業者の勤務形態は、「正社員で他の職員と勤務条件は同じ」が33%、「短時間勤務などの配慮がある」が9%、「パート・アルバイトなどの非常勤職員・派遣職員」が40%などとなっています。

【問 19 で「2」～「8」とお答えの方】

問 19-2 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 仕事をしたい	59	15%	15	8%	13	34%	20	40%	5	13%
2. 仕事をしたいができない	116	30%	54	27%	12	32%	15	30%	16	41%
3. 仕事はしたくない	120	31%	76	38%	8	21%	10	20%	9	23%
4. 自営業、農業など	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5. その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	89	23%	54	27%	5	13%	5	10%	9	23%
合計	384	100%	199	100%	38	100%	50	100%	39	100%



■ 1. 仕事をしたい ■ 2. 仕事をしたいができない ■ 3. 仕事はしたくない ■ 無回答

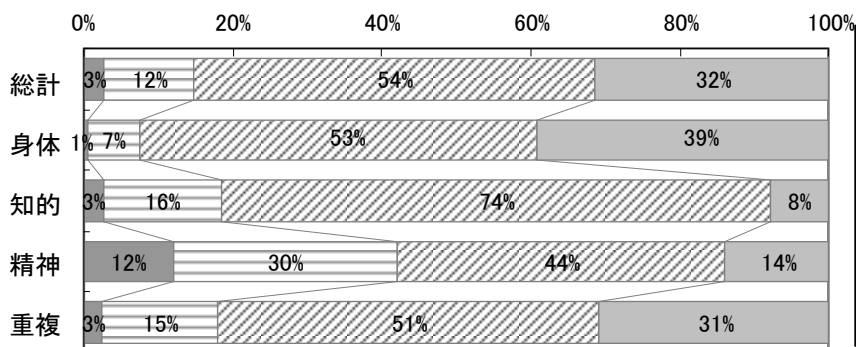
非就業者の就業意向は、「したい」が15%、「したいができない」が30%、「したくない」が31%でした。

知的障がい者と精神障がい者では、「したい」が3～4割にのぼります。

【問 19 で「2」～「8」とお答えの方】

問 19-3 収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. すでに職業訓練を受けている	11	3%	1	1%	1	3%	6	12%	1	3%
2. 職業訓練を受けたい	46	12%	14	7%	6	16%	15	30%	6	15%
3. 職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	206	54%	106	53%	28	74%	22	44%	20	51%
無回答	121	32%	78	39%	3	8%	7	14%	12	31%
合計	384	100%	199	100%	38	100%	50	100%	39	100%



■ 1. すでに職業訓練を受けている ■ 2. 職業訓練を受けたい ■ 3. 職業訓練を受けたくない、受ける必要はない ■ 無回答

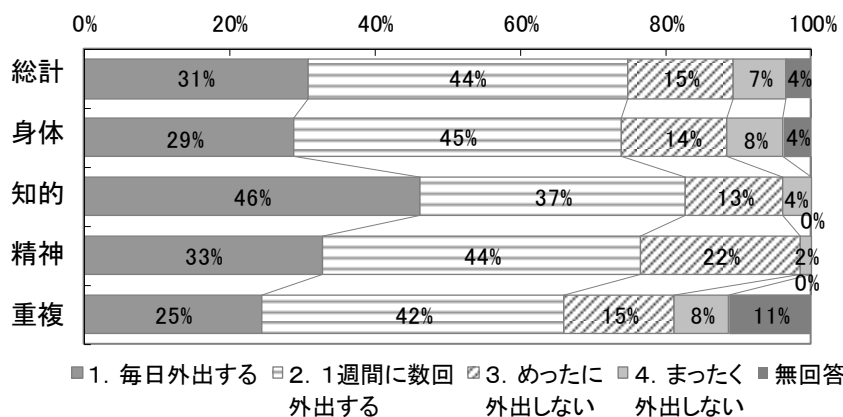
職業訓練などの意向については、「すでに受けている」が3%、「受けたい」が12%ありました。

精神障がい者では、「受けたい」は30%にのぼります。

第4節 外出について

問20 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つ)

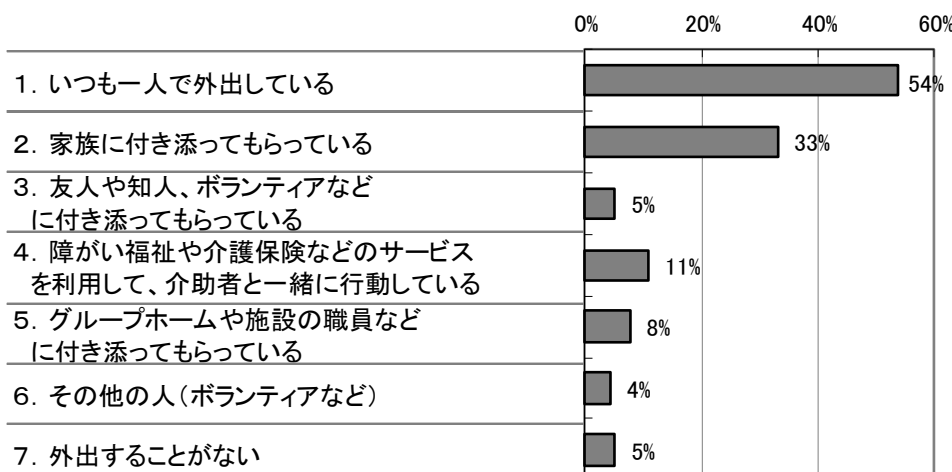
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 毎日外出する	155	31%	74	29%	24	46%	21	33%	13	25%
2. 1週間に数回外出する	222	44%	116	45%	19	37%	28	44%	22	42%
3. めったに外出しない	74	15%	37	14%	7	13%	14	22%	8	15%
4. まったく外出しない	36	7%	20	8%	2	4%	1	2%	4	8%
無回答	18	4%	10	4%	0	0%	0	0%	6	11%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



1週間の外出頻度については、「まったく外出しない」方が7%、「めったに外出しない」方が15%います。

問21 外出するとき、どのようにしていますか。(○はいくつでも)

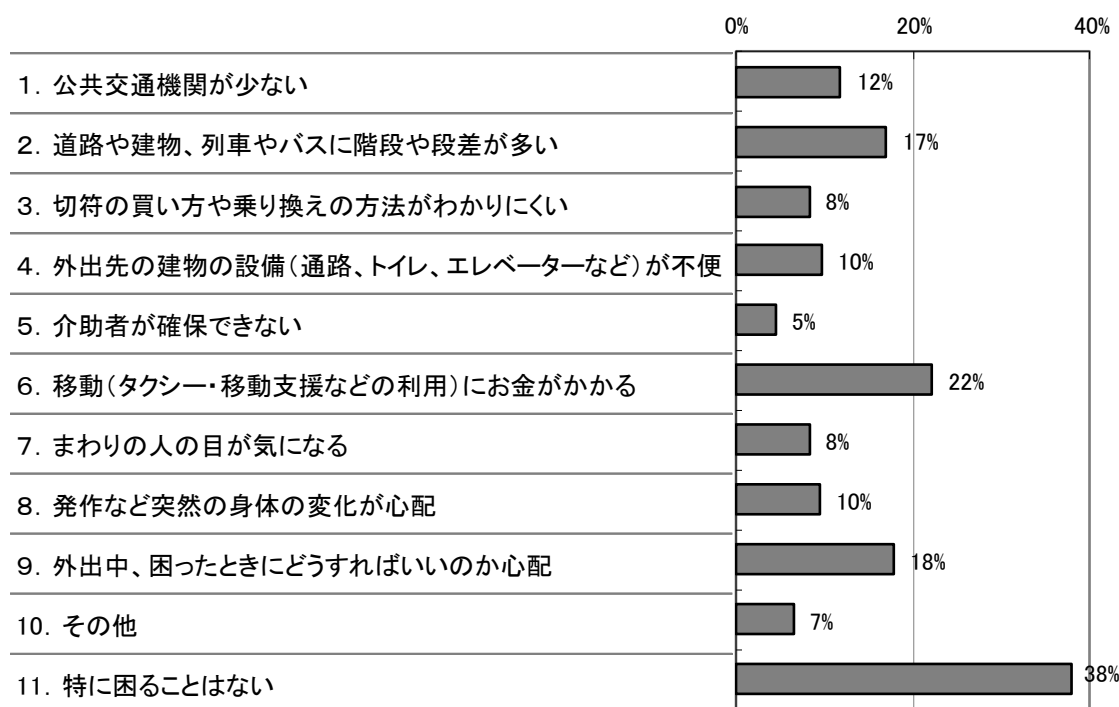
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. いつも一人で外出している	271	54%	140	54%	25	48%	45	70%	18	34%
2. 家族に付き添ってもらっている	167	33%	91	35%	19	37%	24	38%	16	30%
3. 友人や知人、ボランティアなどに付き添ってもらっている	26	5%	9	4%	4	8%	4	6%	3	6%
4. 障がい福祉や介護保険などのサービスを利用して、介助者と一緒に行動している	55	11%	27	11%	7	13%	9	14%	7	13%
5. グループホームや施設の職員などに付き添ってもらっている	39	8%	14	5%	9	17%	3	5%	6	11%
6. その他の人(ボランティアなど)	22	4%	12	5%	2	4%	2	3%	5	9%
7. 外出することがない	26	5%	12	5%	1	2%	1	2%	4	8%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



外出時の介助は、「いつも一人で外出している」が54%で、福祉サービスの介助者の利用は1～2割程度となっています。

問 22 外出の際に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 公共交通機関が少ない	60	12%	29	11%	9	17%	7	11%	3	6%
2. 道路や建物、列車やバスに階段や段差が多い	86	17%	59	23%	4	8%	6	9%	11	21%
3. 切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい	42	8%	17	7%	11	21%	7	11%	6	11%
4. 外出先の建物の設備（通路、トイレ、エレベーターなど）が不便	49	10%	35	14%	4	8%	2	3%	5	9%
5. 介助者が確保できない	23	5%	16	6%	2	4%	1	2%	3	6%
6. 移動（タクシー・移動支援などの利用）にお金がかかる	112	22%	50	19%	12	23%	22	34%	10	19%
7. まわりの人の目が気になる	42	8%	7	3%	8	15%	16	25%	9	17%
8. 発作など突然の身体の変化が心配	48	10%	21	8%	1	2%	12	19%	9	17%
9. 外出中、困ったときにどうすればいいのかが心配	90	18%	34	13%	14	27%	19	30%	17	32%
10. その他	33	7%	18	7%	1	2%	4	6%	5	9%
11. 特に困ることはない	191	38%	96	37%	25	48%	18	28%	12	23%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



外出する時に困ることは、「特に困ることはない」が 38%で、困る内容としては、「移動（タクシー・移動支援などの利用）にお金がかかる」と「外出中、困ったときにどうすればいいのかが心配」がそれぞれ約 2 割程度と多い状況です。

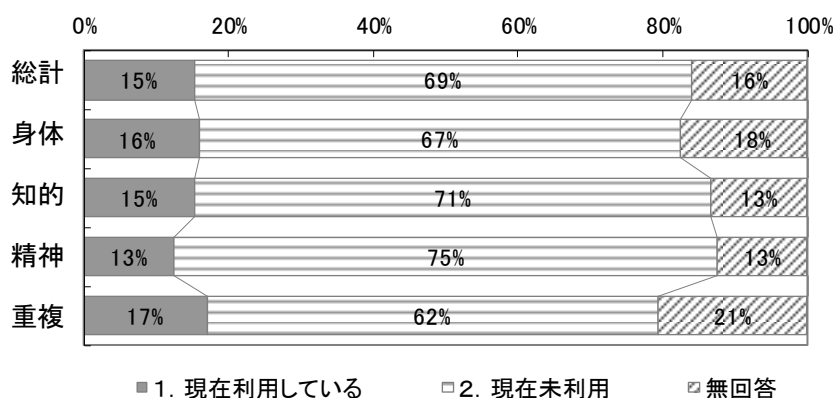
第5節 障がい福祉サービスの利用について

問23 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後、利用したいですか。

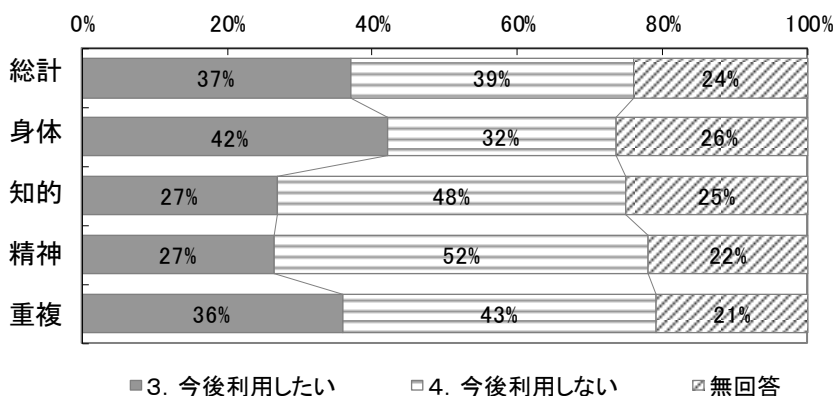
(①から④のそれぞれについて、「現在」と「今後」の両方を回答してください)

①ホームヘルプサービス（居宅介護・行動援護など）

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	77	15%	41	16%	8	15%	8	13%	9	17%
2. 現在未利用	347	69%	171	67%	37	71%	48	75%	33	62%
無回答	81	16%	45	18%	7	13%	8	13%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	187	37%	108	42%	14	27%	17	27%	19	36%
4. 今後利用しない	197	39%	81	32%	25	48%	33	52%	23	43%
無回答	121	24%	68	26%	13	25%	14	22%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

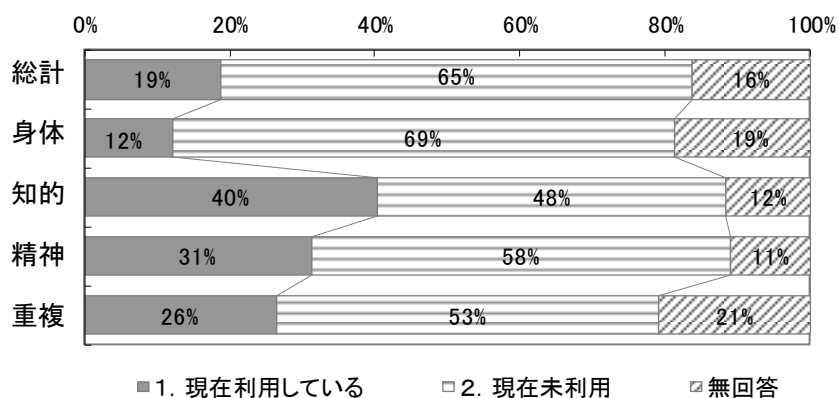


「ホームヘルプサービス」を「現在利用している」は、回答者の15%で、「今後利用したい」（現在利用中の方も含む）は37%となっています。

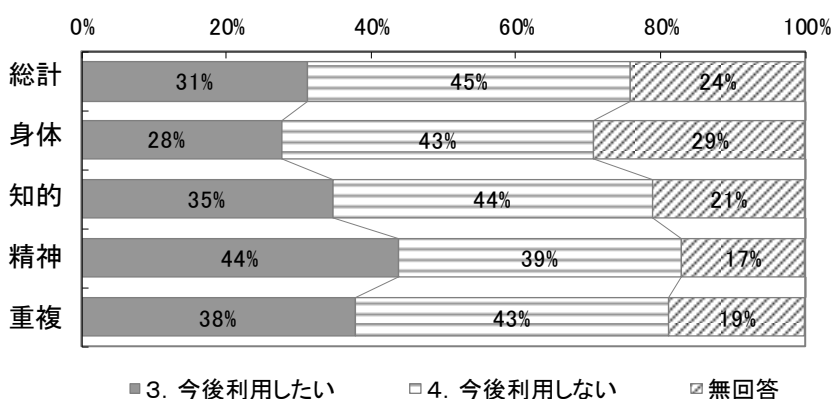
②福祉施設などへの通所

(生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援・地域活動支援センターなど)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	95	19%	31	12%	21	40%	20	31%	14	26%
2. 現在未利用	328	65%	178	69%	25	48%	37	58%	28	53%
無回答	82	16%	48	19%	6	12%	7	11%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



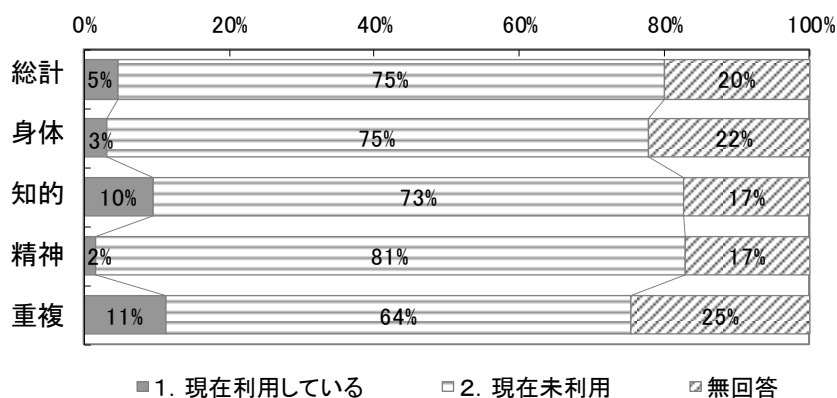
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	158	31%	71	28%	18	35%	28	44%	20	38%
4. 今後利用しない	225	45%	111	43%	23	44%	25	39%	23	43%
無回答	122	24%	75	29%	11	21%	11	17%	10	19%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



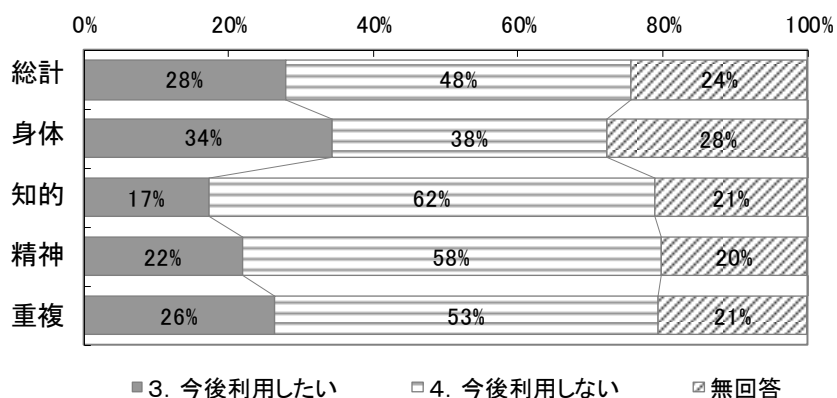
「福祉施設などへの通所」を「現在利用している」は、回答者の 19%で、「今後利用したい」(現在利用中の方も含む) は 31%となっています。
精神障がい者で利用希望が高くなっています。

③短期入所（ショートステイ）

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	23	5%	8	3%	5	10%	1	2%	6	11%
2. 現在未利用	381	75%	192	75%	38	73%	52	81%	34	64%
無回答	101	20%	57	22%	9	17%	11	17%	13	25%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



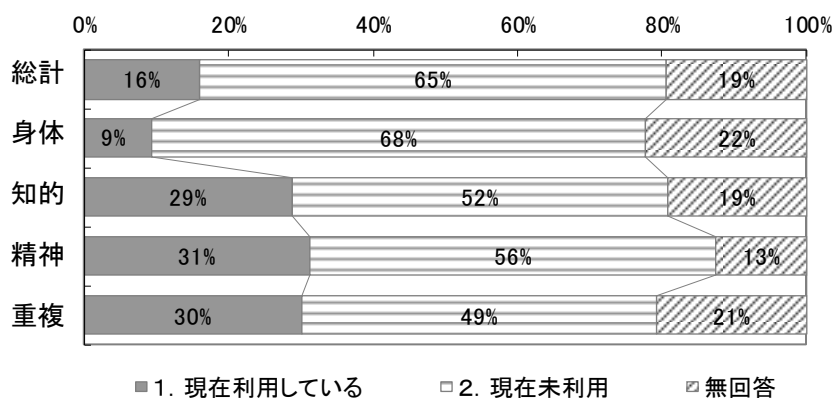
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	141	28%	88	34%	9	17%	14	22%	14	26%
4. 今後利用しない	241	48%	98	38%	32	62%	37	58%	28	53%
無回答	123	24%	71	28%	11	21%	13	20%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



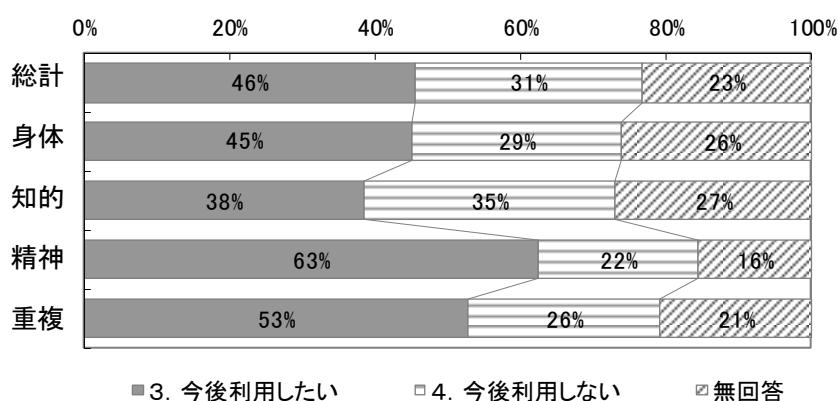
「短期入所」を「現在利用している」は、回答者の5%で、「今後利用したい」（現在利用中の方も含む）は28%となっています。

④相談支援

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	81	16%	24	9%	15	29%	20	31%	16	30%
2. 現在未利用	326	65%	176	68%	27	52%	36	56%	26	49%
無回答	98	19%	57	22%	10	19%	8	13%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



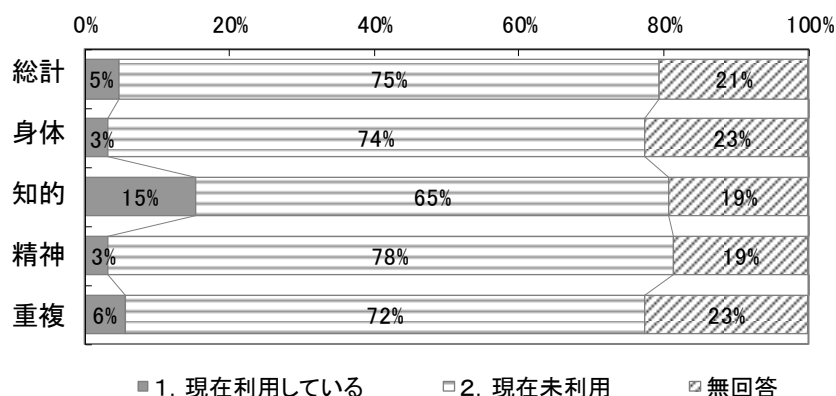
	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	230	46%	116	45%	20	38%	40	63%	28	53%
4. 今後利用しない	157	31%	74	29%	18	35%	14	22%	14	26%
無回答	118	23%	67	26%	14	27%	10	16%	11	21%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



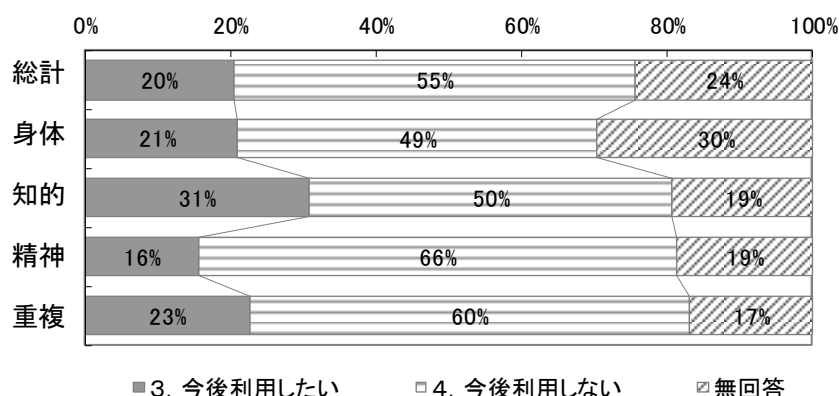
「相談支援」を「現在利用している」は、回答者の16%で、「今後利用したい」（現在利用中の方も含む）は46%となっています。
精神障がい者で利用希望が高くなっています。

⑤施設入所支援

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	24	5%	8	3%	8	15%	2	3%	3	6%
2. 現在未利用	377	75%	191	74%	34	65%	50	78%	38	72%
無回答	104	21%	58	23%	10	19%	12	19%	12	23%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



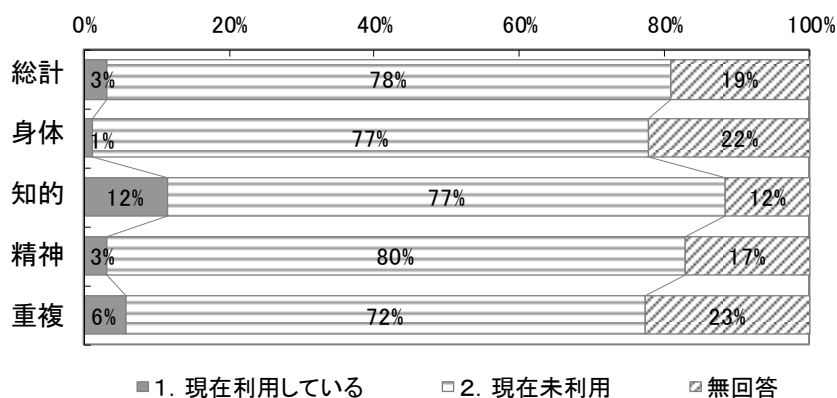
	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	103	20%	54	21%	16	31%	10	16%	12	23%
4. 今後利用しない	279	55%	127	49%	26	50%	42	66%	32	60%
無回答	123	24%	76	30%	10	19%	12	19%	9	17%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



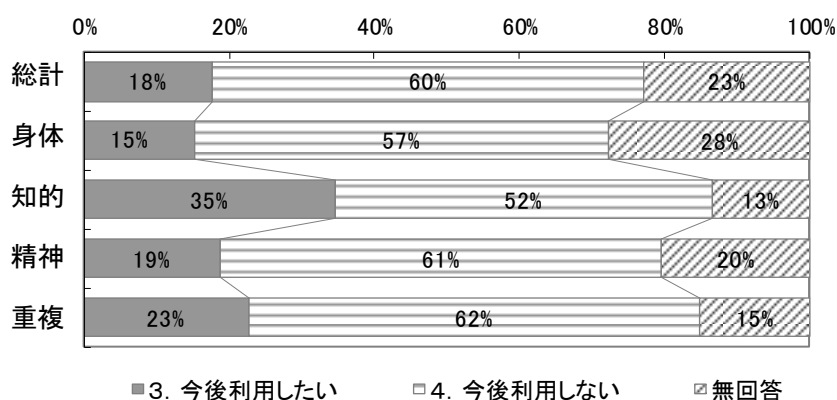
「施設入所支援」を「現在利用している」は、回答者の5%で、「今後利用したい」（現在利用中の方も含む）は20%となっています。
知的障がい者で利用希望が高くなっています。

⑥障害者グループホーム（共同生活援助）

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 現在利用している	16	3%	3	1%	6	12%	2	3%	3	6%
2. 現在未利用	392	78%	197	77%	40	77%	51	80%	38	72%
無回答	97	19%	57	22%	6	12%	11	17%	12	23%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3. 今後利用したい	89	18%	39	15%	18	35%	12	19%	12	23%
4. 今後利用しない	301	60%	147	57%	27	52%	39	61%	33	62%
無回答	115	23%	71	28%	7	13%	13	20%	8	15%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

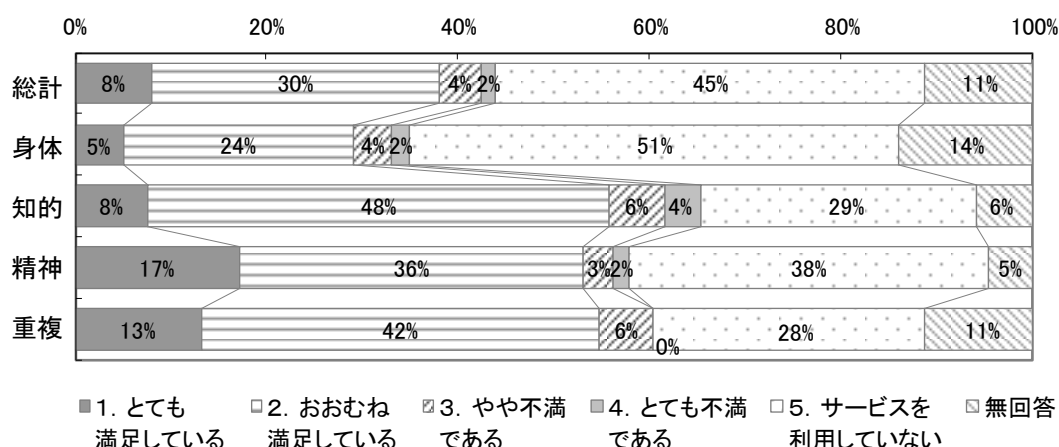


「障害者グループホーム」を「現在利用している」は、回答者の3%で、「今後利用したい」（現在利用中の方も含む）は18%となっています。
知的障がい者で利用希望が高くなっています。

問 24 あなたは、現在利用している障がい福祉サービスについて、どの程度満足していますか。

(〇は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. とても満足している	41	8%	13	5%	4	8%	11	17%	7	13%
2. おおむね満足している	151	30%	62	24%	25	48%	23	36%	22	42%
3. やや不満である	22	4%	10	4%	3	6%	2	3%	3	6%
4. とても不満である	8	2%	5	2%	2	4%	1	2%	0	0%
5. サービスを利用していない	226	45%	131	51%	15	29%	24	38%	15	28%
無回答	57	11%	36	14%	3	6%	3	5%	6	11%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



福祉サービスへの満足度は、「とても満足している」が8%、「おおむね満足している」が30%、「やや不満である」が4%、「とても不満である」が2%で、総じて満足しているという結果が得られました。

また、不満と回答した方にその理由をたずねたところ、「職員の知識や経験が不足している」が33%と最も多く、「プライバシーの配慮に欠ける」も23%ありました。

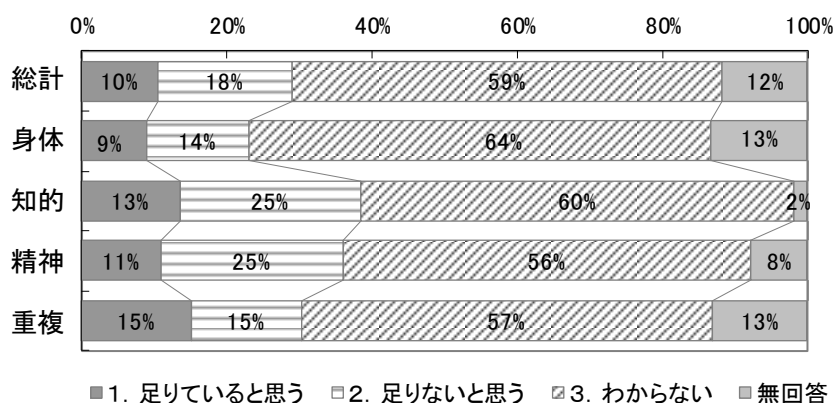
【問 24 で「不満」とお答えの方】

問 24-1 不満と思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 通いやすい場所に事業所がない	5	17%	2	13%	0	0%	2	67%	0	0%
2. 希望する曜日や時間に利用できない	5	17%	1	7%	2	40%	1	33%	0	0%
3. 本人の希望を尊重してもらえない	6	20%	2	13%	1	20%	1	33%	0	0%
4. 家族の意向を尊重してもらえない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5. 職員の知識や経験が不足している	10	33%	3	20%	2	40%	1	33%	1	33%
6. プライバシーの配慮に欠ける	7	23%	1	7%	1	20%	1	33%	1	33%
7. 利用者負担が高い	5	17%	2	13%	1	20%	1	33%	0	0%
8. 引き受けてくれる事業所が見つからない	5	17%	2	13%	0	0%	2	67%	0	0%
9. その他	3	10%	1	7%	1	20%	1	33%	0	0%
合計	30	100%	15	100%	5	100%	3	100%	3	100%

問 25 地域で生活する上で、制度やサービスは足りていると思いますか。(〇は1つ)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 足りていると思う	53	10%	23	9%	7	13%	7	11%	8	15%
2. 足りないと思う	93	18%	36	14%	13	25%	16	25%	8	15%
3. わからない	300	59%	164	64%	31	60%	36	56%	30	57%
無回答	59	12%	34	13%	1	2%	5	8%	7	13%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



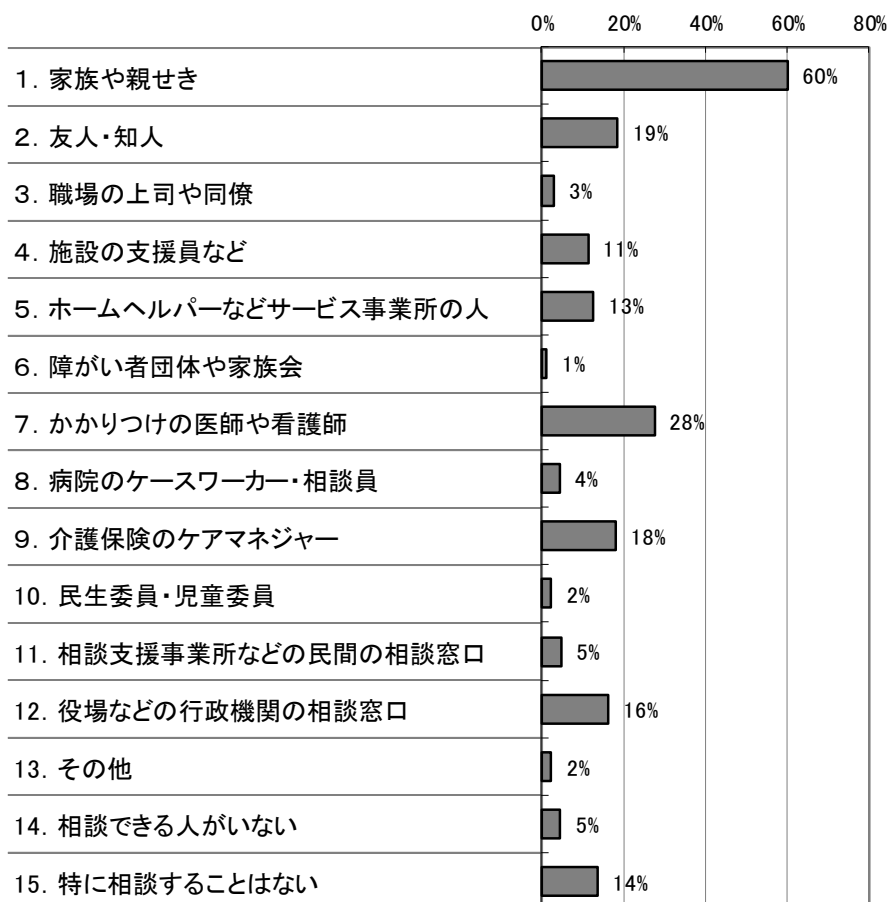
「地域で生活する上で、制度やサービスは足りていると思うか」については、「足りていると思う」が10%、「足りないと思う」が18%、「わからない」が59%などとなっています。

「足りないと思う」は、知的障がい者と精神障がい者でやや高くなっています。

第6節 相談や情報について

問26 困っていることや悩み、サービスのことなどを相談するのは誰、あるいはどこですか。(〇はいくつでも)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 家族や親せき	303	60%	155	60%	31	60%	48	75%	27	51%
2. 友人・知人	94	19%	42	16%	10	19%	14	22%	7	13%
3. 職場の上司や同僚	15	3%	4	2%	3	6%	3	5%	3	6%
4. 施設の支援員など	57	11%	11	4%	15	29%	13	20%	9	17%
5. ホームヘルパーなどサービス事業所の人	64	13%	31	12%	3	6%	11	17%	7	13%
6. 障がい者団体や家族会	6	1%	2	1%	2	4%	1	2%	0	0%
7. かかりつけの医師や看護師	139	28%	61	24%	9	17%	30	47%	15	28%
8. 病院のケースワーカー・相談員	22	4%	5	2%	4	8%	5	8%	7	13%
9. 介護保険のケアマネジャー	91	18%	61	24%	3	6%	9	14%	7	13%
10. 民生委員・児童委員	12	2%	6	2%	1	2%	1	2%	2	4%
11. 相談支援事業所などの民間の相談窓口	24	5%	6	2%	8	15%	7	11%	1	2%
12. 役場などの行政機関の相談窓口	82	16%	38	15%	8	15%	13	20%	9	17%
13. その他	12	2%	5	2%	1	2%	3	5%	2	4%
14. 相談できる人がいない	23	5%	11	4%	2	4%	6	9%	2	4%
15. 特に相談することはない	69	14%	37	14%	9	17%	4	6%	5	9%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



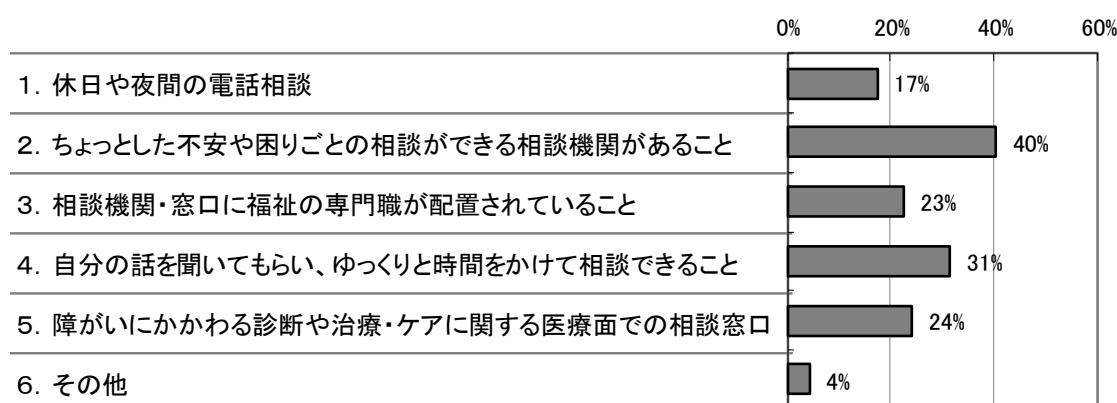
相談相手・相談先については、公的機関では、「かかりつけの医師や看護師」が28%で最も多く、特に精神障がい者では47%と高い割合になっています。

あとは、「介護保険のケアマネジャー」が18%、「役場などの行政機関の相談窓口」が16%と続いています。

「相談できる人がいない」もわずかながら回答がみられます。

問 27 今後の相談支援体制について、どのようなことを希望しますか。(〇はいくつでも)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 休日や夜間の電話相談	88	17%	40	16%	6	12%	13	20%	8	15%
2. ちょっとした不安や困りごとの相談ができる相談機関があること	204	40%	88	34%	21	40%	38	59%	21	40%
3. 相談機関・窓口福祉の専門職が配置されていること	114	23%	60	23%	9	17%	22	34%	8	15%
4. 自分の話を聞いてもらい、ゆっくりと時間をかけて相談できること	159	31%	66	26%	20	38%	27	42%	18	34%
5. 障がいにかかわる診断や治療・ケアに関する医療面での相談窓口	122	24%	69	27%	14	27%	17	27%	13	25%
6. その他	22	4%	12	5%	2	4%	2	3%	2	4%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



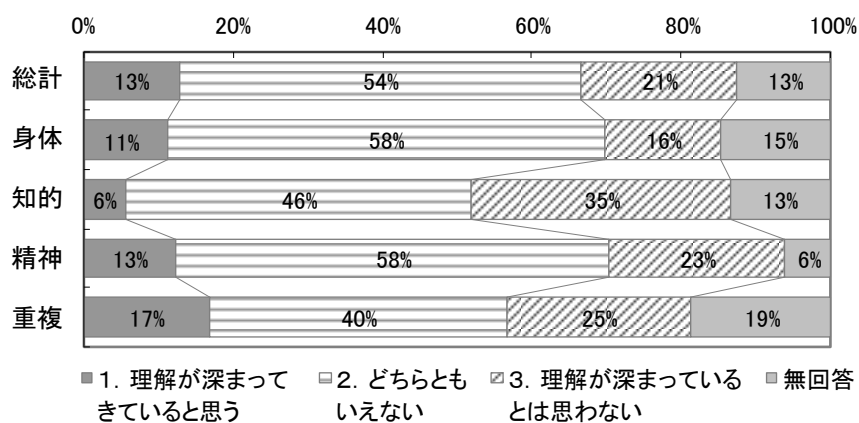
相談支援体制の意向については、「ちょっとした不安や困りごとの相談ができる相談機関があること」が40%で最も多く、次いで「自分の話を聞いてもらい、ゆっくりと時間をかけて相談できること」が31%、「障がいにかかわる診断や治療・ケアに関する医療面での相談窓口」が24%などとなっています。

精神障がい者では、「ちょっとした不安や困りごとの相談ができる相談機関があること」が59%と高い意向があります。

第 7 節 社会への啓発について

問 28 あなたは、障がいのある人が地域で暮らしたり、就職などの社会参加について、一般の人の理解が深まってきていると思いますか。(〇は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 理解が深まってきていると思う	65	13%	29	11%	3	6%	8	13%	9	17%
2. どちらともいえない	271	54%	150	58%	24	46%	37	58%	21	40%
3. 理解が深まっているとは思わない	105	21%	40	16%	18	35%	15	23%	13	25%
無回答	64	13%	38	15%	7	13%	4	6%	10	19%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

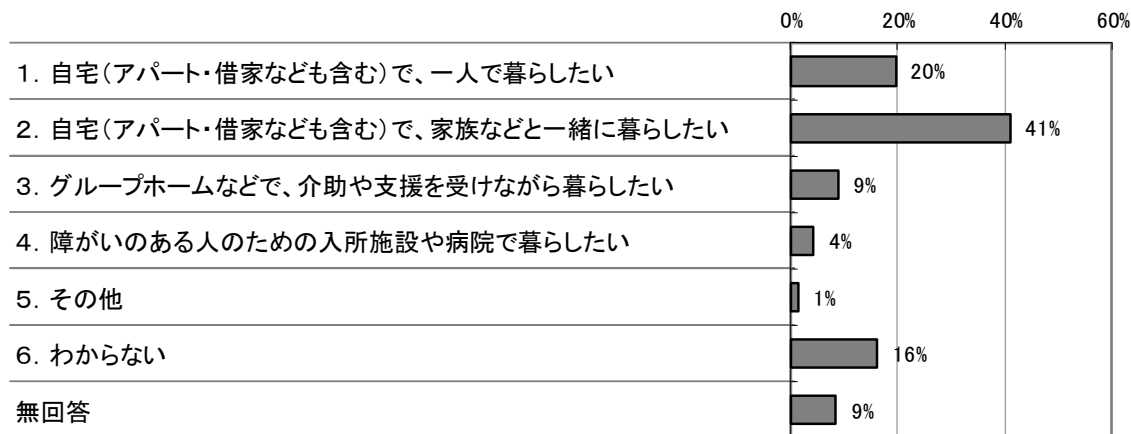


障がい者への理解については、「理解が深まってきていると思う」は13%、「どちらともいえない」が54%、「理解が深まっているとは思わない」が21%となっています。
「理解が深まっているとは思わない」は、知的障がい者で35%と高くなっています。

第8節 地域での生活について

問29 あなたは将来、どのように生活したいと思いますか。(○は1つ)

	総計		身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		重複障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 自宅（アパート・借家なども含む）で、一人で暮らしたい	99	20%	49	19%	7	13%	21	33%	8	15%
2. 自宅（アパート・借家なども含む）で、家族などと一緒に暮らしたい	207	41%	112	44%	18	35%	25	39%	16	30%
3. グループホームなどで、介助や支援を受けながら暮らしたい	45	9%	15	6%	10	19%	5	8%	8	15%
4. 障がいのある人のための入所施設や病院で暮らしたい	22	4%	10	4%	6	12%	1	2%	4	8%
5. その他	7	1%	1	0%	1	2%	1	2%	2	4%
6. わからない	82	16%	45	18%	7	13%	9	14%	5	9%
無回答	43	9%	25	10%	3	6%	2	3%	10	19%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%



今後の生活の意向については、「自宅」という回答が多く、「グループホームなど」は9%、「入所施設や病院」は4%となっています。
知的障がい者では、「グループホームなど」は19%と多くなっています。

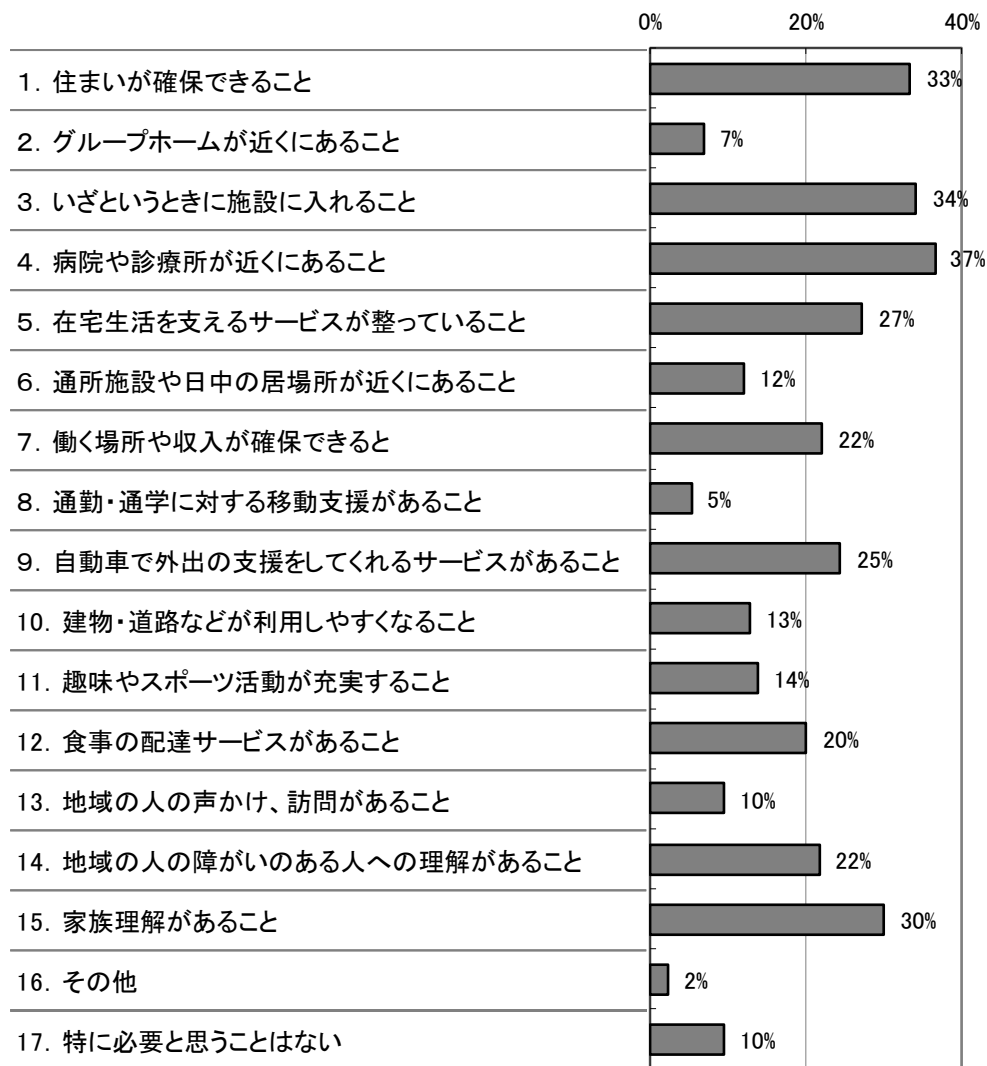
問 30 あなたが望む暮らしを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

	総計		身体 障がい者		知的 障がい者		精神 障がい者		重複 障がい者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 住まいが確保できること	169	33%	69	27%	20	38%	36	56%	16	30%
2. グループホームが近くにあること	35	7%	8	3%	9	17%	5	8%	9	17%
3. いざというときに施設に入れること	173	34%	94	37%	14	27%	21	33%	18	34%
4. 病院や診療所が近くにあること	186	37%	105	41%	12	23%	27	42%	16	30%
5. 在宅生活を支えるサービスが整っていること	138	27%	75	29%	10	19%	21	33%	9	17%
6. 通所施設や日中の居場所が近くにあること	61	12%	27	11%	10	19%	9	14%	9	17%
7. 働く場所や収入が確保できること	112	22%	36	14%	17	33%	26	41%	12	23%
8. 通勤・通学に対する移動支援があること	27	5%	6	2%	4	8%	8	13%	5	9%
9. 自動車で外出の支援をしてくれるサービスがあること	124	25%	74	29%	5	10%	11	17%	13	25%
10. 建物・道路などが利用しやすくなること	65	13%	29	11%	4	8%	9	14%	11	21%
11. 趣味やスポーツ活動が充実すること	70	14%	31	12%	8	15%	13	20%	7	13%
12. 食事の配達サービスがあること	102	20%	57	22%	9	17%	16	25%	8	15%
13. 地域の人の声かけ、訪問があること	48	10%	24	9%	5	10%	7	11%	6	11%
14. 地域の人の障がいのある人への理解があること	110	22%	44	17%	16	31%	20	31%	16	30%
15. 家族理解があること	152	30%	72	28%	11	21%	29	45%	14	26%
16. その他	12	2%	4	2%	2	4%	2	3%	0	0%
17. 特に必要と思うことはない	48	10%	26	10%	11	21%	2	3%	3	6%
合計	505	100%	257	100%	52	100%	64	100%	53	100%

「望む暮らしを実現するための条件」については、「病院や診療所が近くにあること」が37%で最も多く、次いで「いざというときに施設に入れること」が34%、「住まいが確保できること」が33%、「家族理解があること」が30%などとなっています。

精神障がい者では、「住まいが確保できること」や「働く場所や収入が確保できること」、「地域の人の障がいのある人への理解があること」、「家族理解があること」などで、他の層より高い割合となっています。



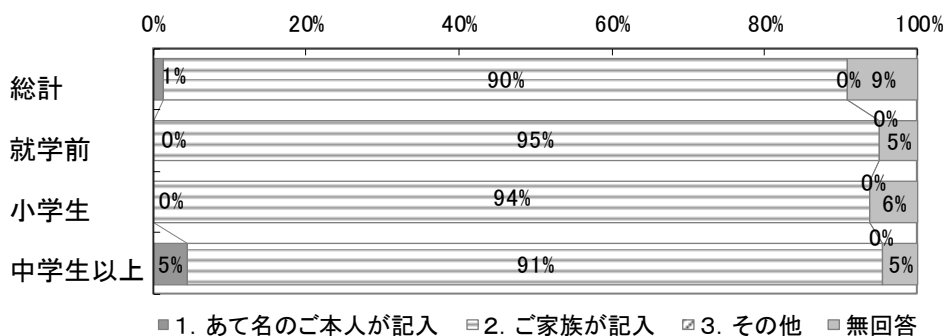
第2章 子ども用調査

子ども用調査の集計結果は、以下のとおりです。
子ども用調査では、就学前児童、小学生、中学生以上に分け、クロス表を掲載します。

第1節 性別・年齢・障がいの状況などについて

問1 お答えいただく方は、どなたですか。(〇は1つ)

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ご本人 (調査票が郵送された宛名の方)	1	1%	0	0%	0	0%	1	5%
2. ご本人のご家族 (主にサポートしてる方) など	69	90%	19	95%	30	94%	20	91%
3. ご家族以外の介助者	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	7	9%	1	5%	2	6%	1	5%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%

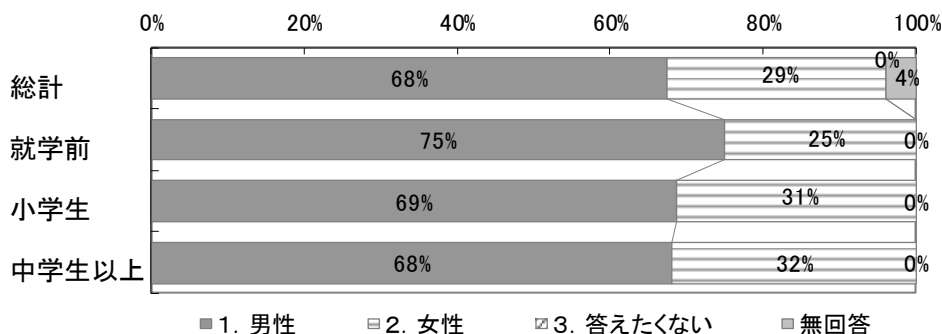


回答者は、「ご本人のご家族など」が90%、「ご本人」が1%でした。

問2 お子さんの性別・年齢をお答えください。

(1) 性別 (〇は1つ)

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 男性	52	68%	15	75%	22	69%	15	68%
2. 女性	22	29%	5	25%	10	31%	7	32%
3. 答えたくない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



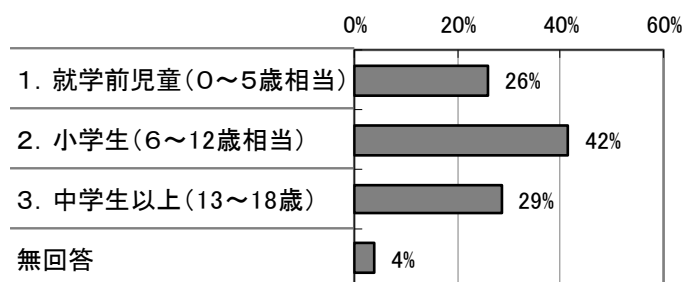
性別は、男の子がやや多い状況です。

(2) 年齢

	総計	
	人数	割合
1. 就学前児童（0～5歳相当）	20	26%
2. 小学生（6～12歳相当）	32	42%
3. 中学生以上（13～18歳）	22	29%
無回答	3	4%
合計	77	100%

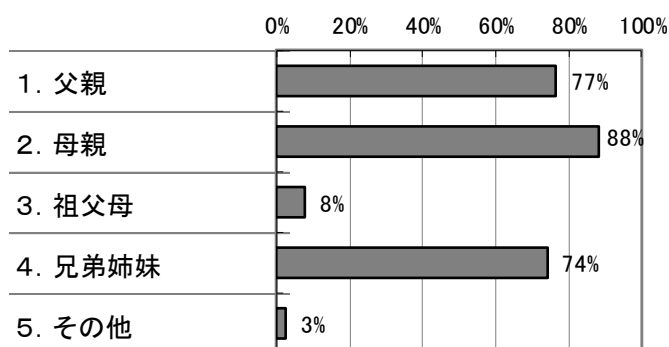
子どもの年齢は、「就学前児童（0～5歳相当）」が26%（77人中20人）、「小学生（6～12歳相当）」が42%（同32人）、「中学生以上（13～18歳）」が29%（同22人）でした。

なお、年齢無回答の3人あり、就学前児童、小学生、中学生以上の3区分に含められませんでした。



問3 一緒に暮らしている人（お子さんからみた続柄）はどなたですか。（〇はいくつでも）

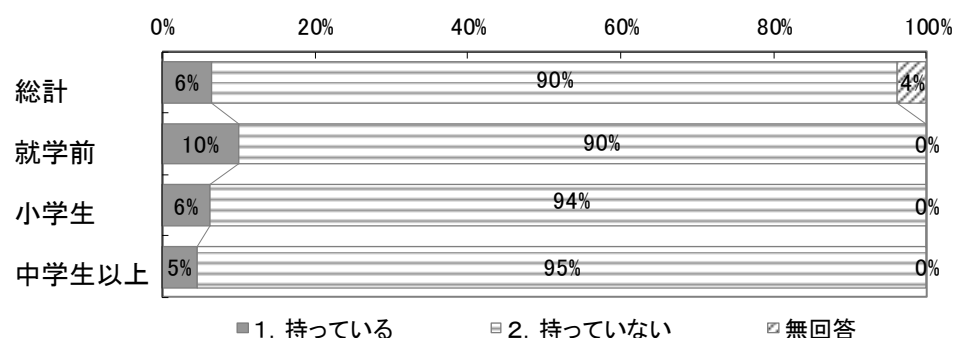
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 父親	59	77%	18	90%	25	78%	16	73%
2. 母親	68	88%	20	100%	30	94%	18	82%
3. 祖父母	6	8%	0	0%	3	9%	3	14%
4. 兄弟姉妹	57	74%	16	80%	26	81%	15	68%
5. その他	2	3%	0	0%	1	3%	1	5%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



一緒に暮らしている人は、「母親」が88%、「父親」が77%など表のとおりです。母子・父子家庭なども、一定数あることがわかります。

問4 お子さんは、身体障がい者手帳をお持ちですか。(○は1つ)

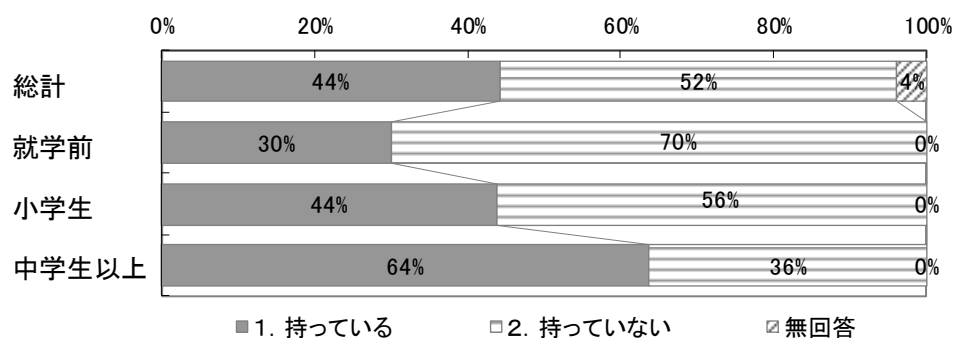
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	5	6%	2	10%	2	6%	1	5%
2. 持っていない	69	90%	18	90%	30	94%	21	95%
無回答	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



身体障がい者手帳は、「持っている」は6%（77人中5人）です。

問5 お子さんは、療育手帳をお持ちですか。(○は1つ)

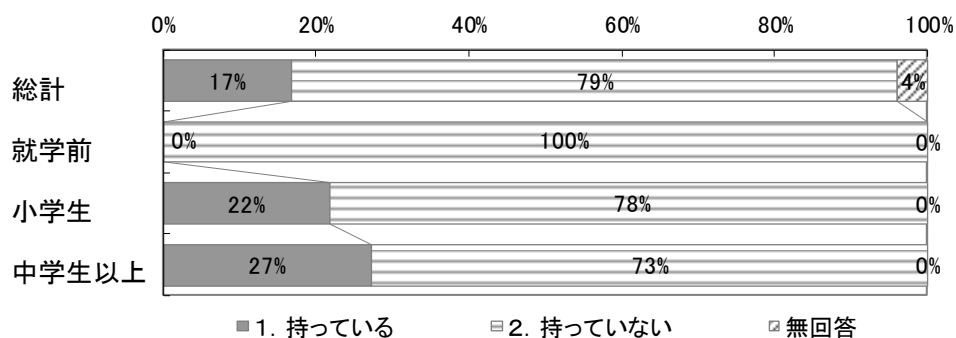
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	34	44%	6	30%	14	44%	14	64%
2. 持っていない	40	52%	14	70%	18	56%	8	36%
無回答	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



療育手帳は、「持っている」は44%（77人中34人）です。就学前児童は30%、小学生は44%、中学生以上は64%となっています。

問6 お子さんは、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つ)

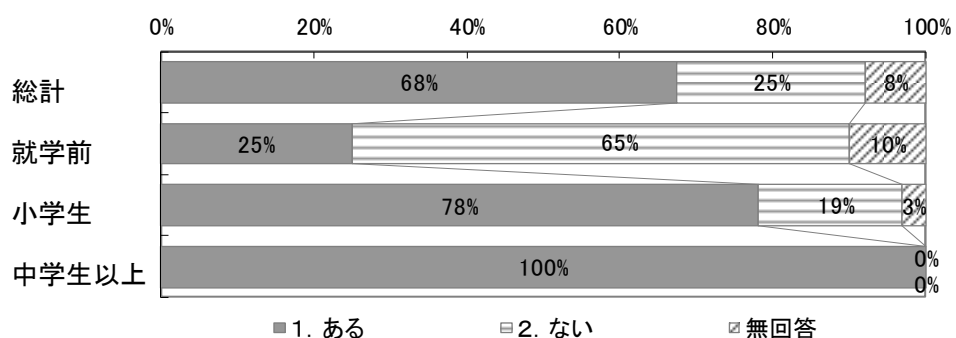
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 持っている	13	17%	0	0%	7	22%	6	27%
2. 持っていない	61	79%	20	100%	25	78%	16	73%
無回答	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



精神障がい者保健福祉手帳は、「持っている」は17%（77人中13人）です。就学前児童は該当者なしで、小学生は22%、中学生以上は27%となっています。

問7 お子さんは、医療機関で発達障がいと診断をされたことがありますか。(〇は1つ)

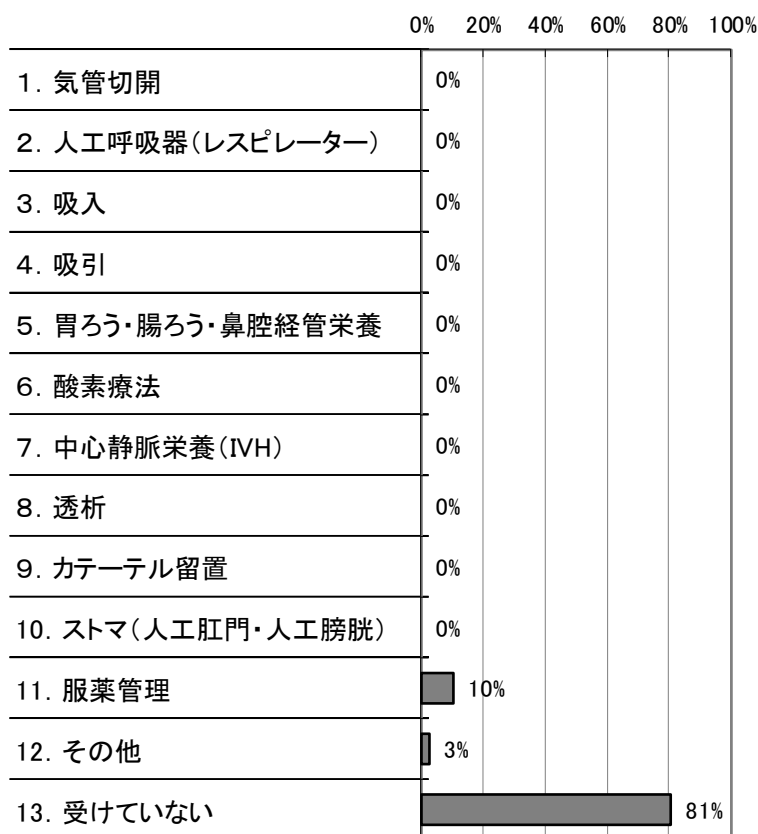
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ある	52	68%	5	25%	25	78%	22	100%
2. ない	19	25%	13	65%	6	19%	0	0%
無回答	6	8%	2	10%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



医療機関で発達障がいと診断をされたことが「ある」は、68%でした。就学前児童は25%、小学生は78%、中学生以上は100%となっています。

問8 現在、お子さんは医療ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)

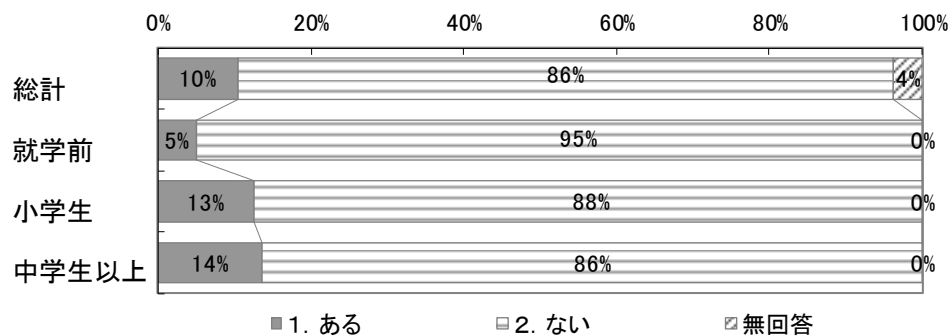
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 気管切開	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2. 人工呼吸器（レスピレーター）	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3. 吸入	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4. 吸引	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5. 胃ろう・腸ろう・鼻腔経管栄養	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6. 酸素療法	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7. 中心静脈栄養（IVH）	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8. 透析	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9. カテーテル留置	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10. ストマ（人工肛門・人工膀胱）	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11. 服薬管理	8	10%	0	0%	4	13%	4	18%
12. その他	2	3%	1	5%	0	0%	1	5%
13. 受けていない	62	81%	18	90%	28	88%	16	73%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



医療ケアは、「服薬管理」が 10%（8人）で、「吸引」、「ストマ」など介助が必要となる項目の該当者はありませんでした。

問9 お子さんは、強度行動障がい（極端な固執行動など）がありますか。（○は1つ）

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. ある	8	10%	1	5%	4	13%	3	14%
2. ない	66	86%	19	95%	28	88%	19	86%
無回答	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



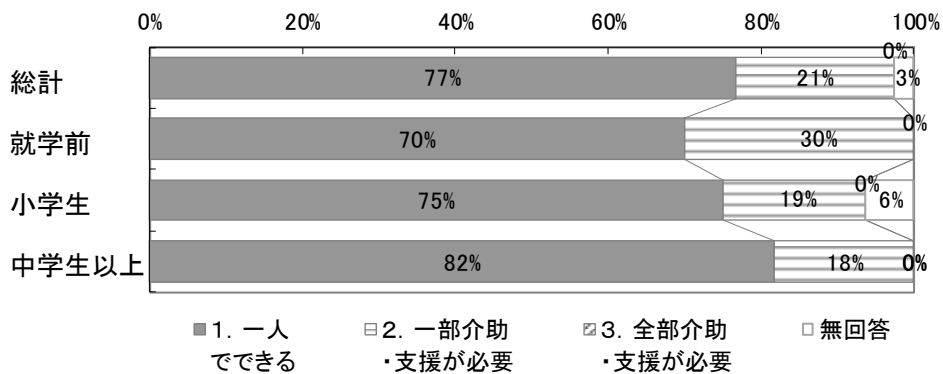
強度行動障がい「ある」は10%（8人）でした。就学前児童は5%、小学生は13%、中学生以上は14%となっています。

第2節 介助・支援の状況について

問10 お子さんは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。(それぞれ○は1つ)

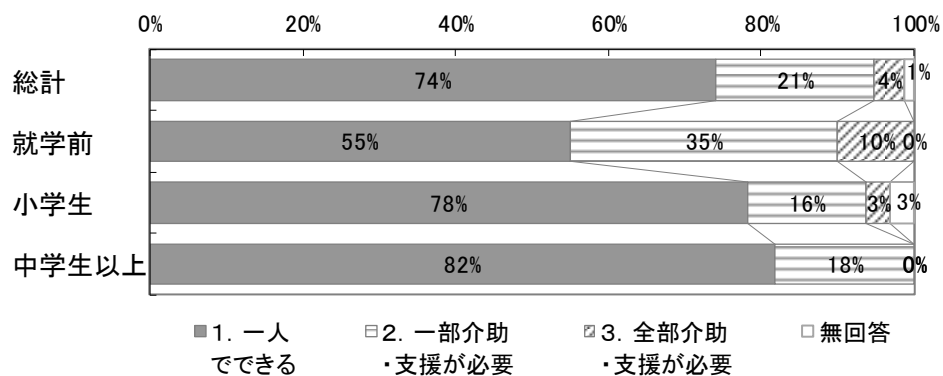
①食事

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人でできる	59	77%	14	70%	24	75%	18	82%
2. 一部介助・支援が必要	16	21%	6	30%	6	19%	4	18%
3. 全部介助・支援が必要	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	2	3%	0	0%	2	6%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



②トイレ

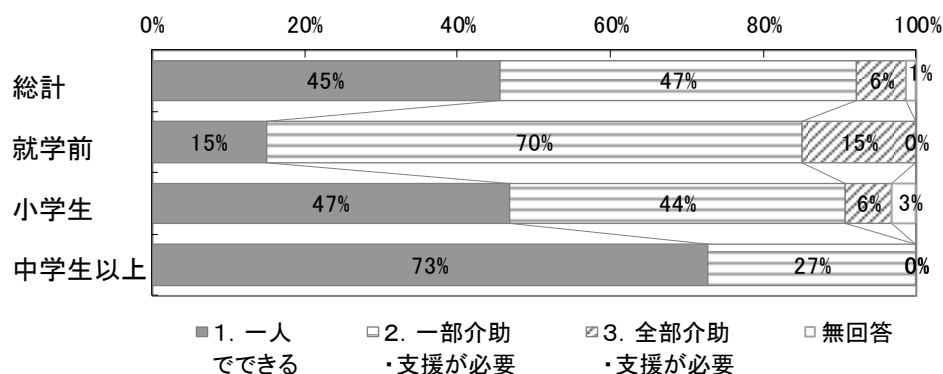
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人でできる	57	74%	11	55%	25	78%	18	82%
2. 一部介助・支援が必要	16	21%	7	35%	5	16%	4	18%
3. 全部介助・支援が必要	3	4%	2	10%	1	3%	0	0%
無回答	1	1%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



食事の要介助は、中学生で4人、小学生で6人、トイレの要介助は、中学生で4人、小学生で6人となっています。

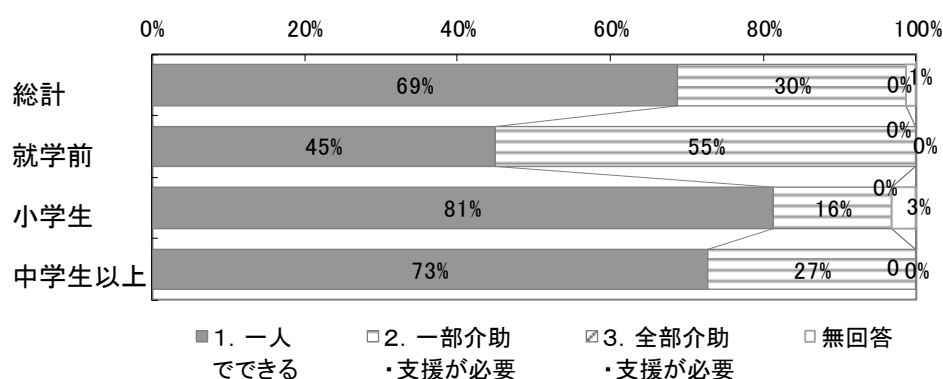
③入浴

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人でできる	35	45%	3	15%	15	47%	16	73%
2. 一部介助・支援が必要	36	47%	14	70%	14	44%	6	27%
3. 全部介助・支援が必要	5	6%	3	15%	2	6%	0	0%
無回答	1	1%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



④衣服の着替え

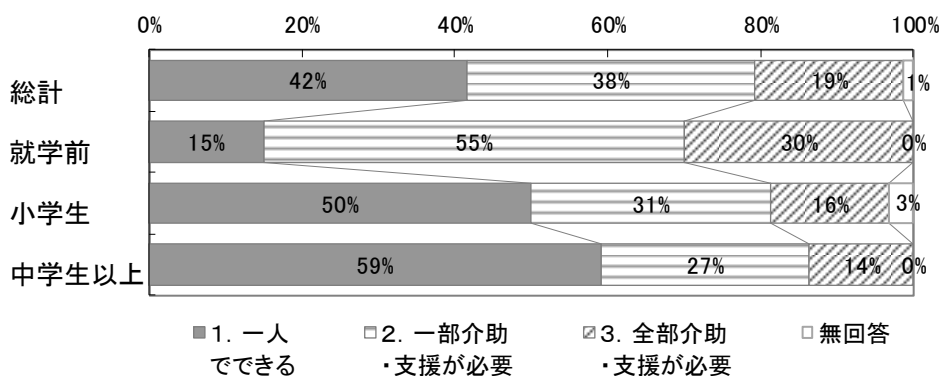
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人でできる	53	69%	9	45%	26	81%	16	73%
2. 一部介助・支援が必要	23	30%	11	55%	5	16%	6	27%
3. 全部介助・支援が必要	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	1	1%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



入浴の要介助は、中学生で6人、小学生で16人、衣服の着替えの要介助は、中学生で6人、小学生で5人となっています。

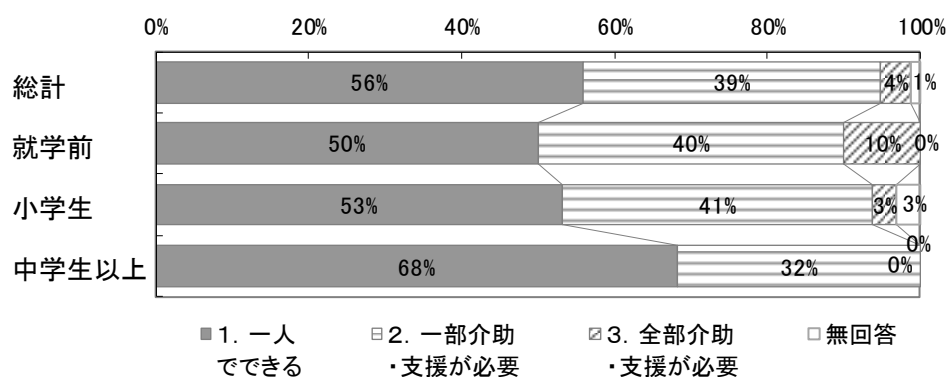
⑤外出

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行ける	32	42%	3	15%	16	50%	13	59%
2. 一部介助・支援が必要	29	38%	11	55%	10	31%	6	27%
3. 全部介助・支援が必要	15	19%	6	30%	5	16%	3	14%
無回答	1	1%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



⑥家族以外の人との意思疎通

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 一人で行ける	43	56%	10	50%	17	53%	15	68%
2. 一部介助・支援が必要	30	39%	8	40%	13	41%	7	32%
3. 全部介助・支援が必要	3	4%	2	10%	1	3%	0	0%
無回答	1	1%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%

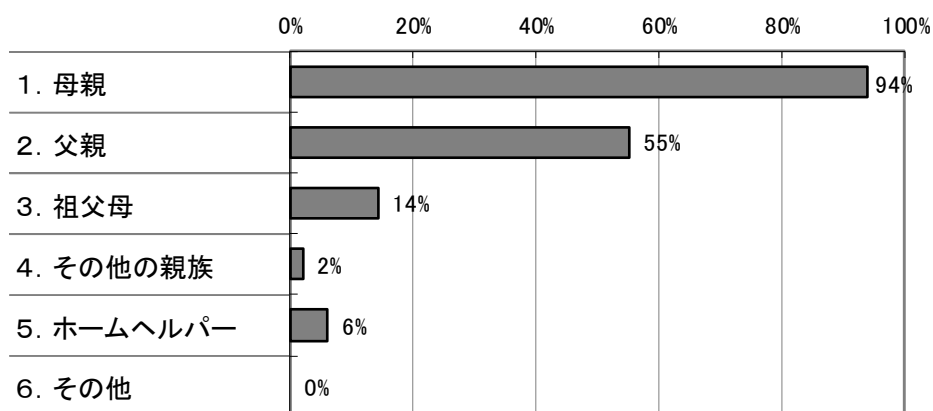


外出の要介助は、中学生で9人、小学生で15人、家族以外の人との意思疎通の要介助は、中学生で7人、小学生で14人となっています。

【問 10 で「2 一部介助が必要」又は「3 全部介助が必要」とお答えの方】

問 10－1 お子さんの主な介助者は誰ですか。（○はいくつでも）

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 母親	46	94%	18	100%	17	89%	8	89%
2. 父親	27	55%	11	61%	11	58%	4	44%
3. 祖父母	7	14%	2	11%	3	16%	1	11%
4. その他の親族	1	2%	1	6%	0	0%	0	0%
5. ホームヘルパー	3	6%	1	6%	1	5%	1	11%
6. その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	49	100%	18	100%	19	100%	9	100%

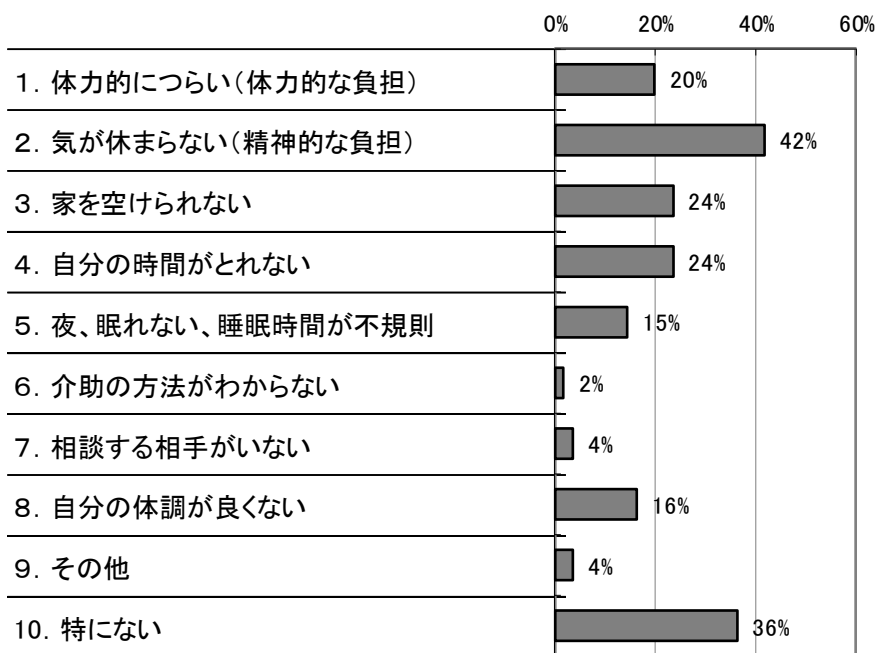


主な介助者は「母親」が94%、「父親」が55%などとなっています。

【問 10－1 でご家族が介助されている（「1」～「4」）とお答えの方】

問 10－2 介助をするうえで、困っていることはありますか。（○はいくつでも）

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 体力的につらい（体力的な負担）	11	20%	1	6%	7	32%	3	25%
2. 気が休まらない（精神的な負担）	23	42%	4	22%	12	55%	6	50%
3. 家を空けられない	13	24%	4	22%	3	14%	5	42%
4. 自分の時間がとれない	13	24%	2	11%	7	32%	4	33%
5. 夜、眠れない、睡眠時間が不規則	8	15%	1	6%	4	18%	3	25%
6. 介助の方法がわからない	1	2%	1	6%	0	0%	0	0%
7. 相談する相手がいない	2	4%	0	0%	1	5%	1	8%
8. 自分の体調が良くない	9	16%	1	6%	6	27%	2	17%
9. その他	2	4%	0	0%	1	5%	1	8%
10. 特にない	20	36%	11	61%	7	32%	1	8%
合計	55	100%	18	100%	22	100%	12	100%

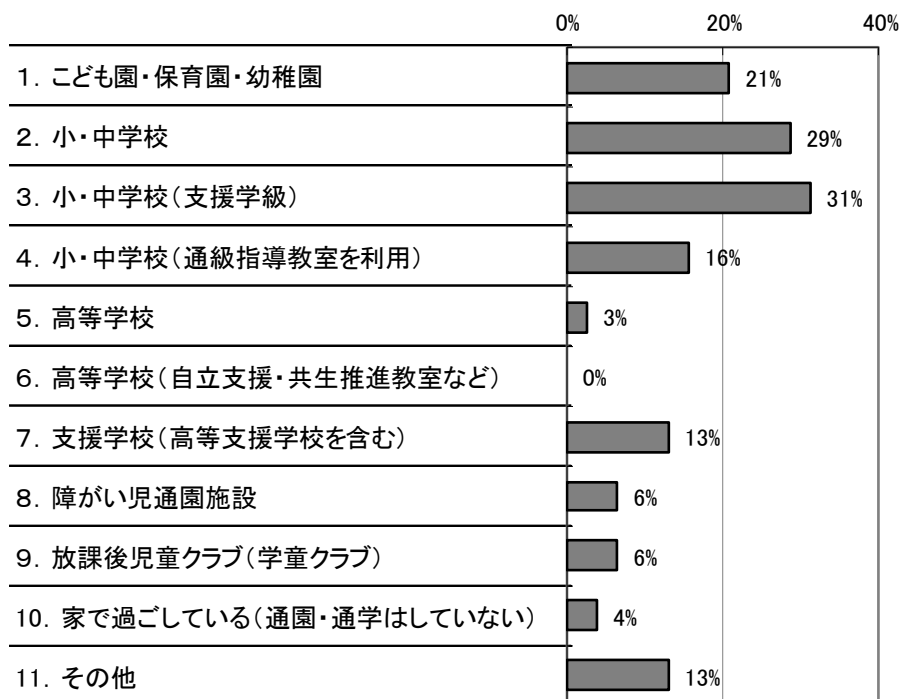


介助をするうえで困っていることは、「気が休まらない（精神的な負担）」が 42%と最も多く、次いで「家を空けられない」と「自分の時間がとれない」が 24%、「体力的につらい（体力的な負担）」が 20%で続いています。

第3節 就園・就学の状況について

問11 お子さんは、平日の日中をどこで過ごしていますか。（〇はいくつでも）

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. こども園・保育園・幼稚園	16	21%	16	80%	0	0%	0	0%
2. 小・中学校	22	29%	0	0%	14	44%	5	23%
3. 小・中学校（支援学級）	24	31%	0	0%	18	56%	5	23%
4. 小・中学校（通級指導教室を利用）	12	16%	0	0%	4	13%	7	32%
5. 高等学校	2	3%	0	0%	0	0%	2	9%
6. 高等学校（自立支援・共生推進教室など）	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7. 支援学校（高等支援学校を含む）	10	13%	0	0%	4	13%	6	27%
8. 障がい児通園施設	5	6%	4	20%	1	3%	0	0%
9. 放課後児童クラブ（学童クラブ）	5	6%	4	20%	1	3%	0	0%
10. 家で過ごしている（通園・通学はしていない）	3	4%	0	0%	2	6%	1	5%
11. その他	10	13%	3	15%	4	13%	3	14%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



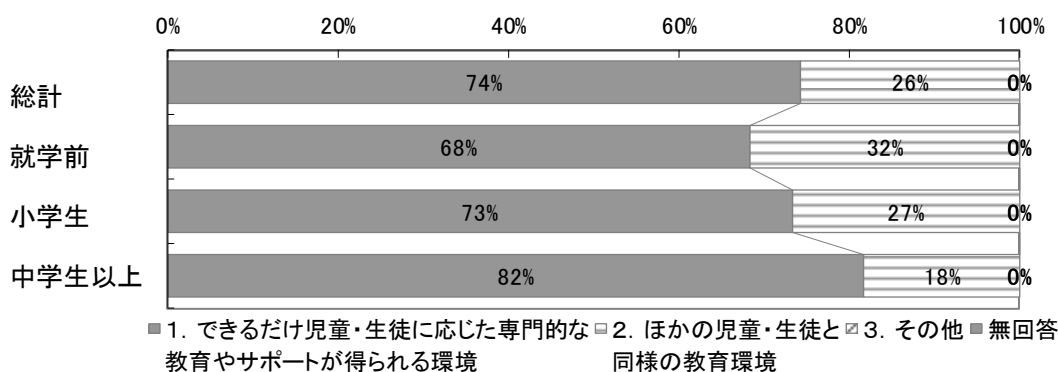
通学場所は、「小学生」では「普通学級」が14人、「支援学級」が18人、「通級指導教室を利用」が4人、「支援学校」が4人、「中学生以上」では、「通級指導教室を利用」が7人、「支援学校」が6人などとなっています。

「就学前児童」は、「こども園・保育所・幼稚園」が20人中16人で、「障がい児通園施設」にも4人が通園している状況です。「就学前児童」に「放課後児童クラブ（学童クラブ）」という回答がみられますが、児童発達支援と放課後等デイサービスを行っている事業所の利用と考えられます。

【問11で「1」～「8」とお答えの方】

問11-1 就園・就学環境として望ましいと思うものは、次のどれですか。(○は1つ)

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. できるだけ児童・生徒に応じた専門的な教育やサポートが得られる環境	55	74%	13	68%	22	73%	18	82%
2. ほかの児童・生徒と同様の教育環境	19	26%	6	32%	8	27%	4	18%
3. その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
無回答	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	74	100%	19	100%	30	100%	22	100%

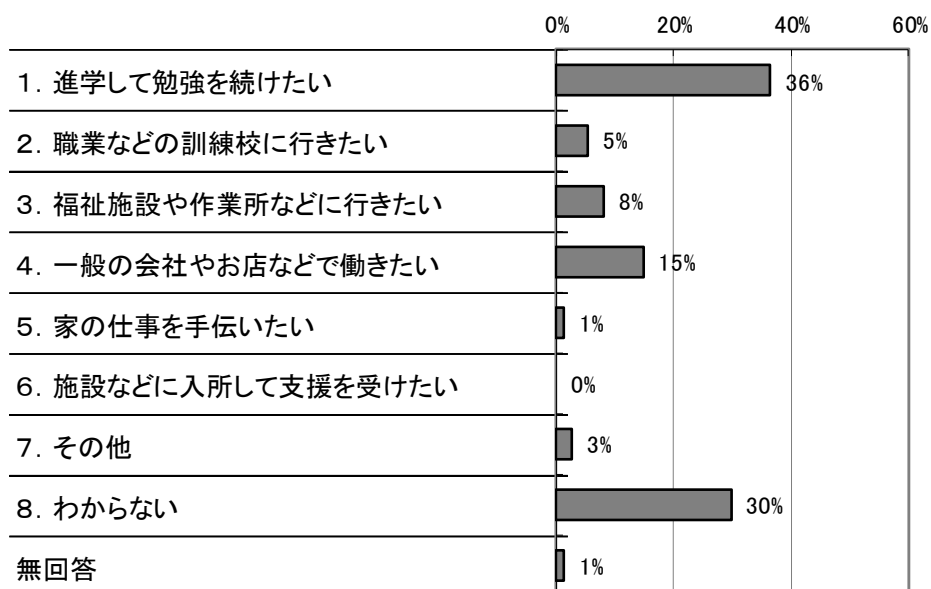


就園・就学環境としては、「できるだけ児童・生徒に応じた専門的な教育やサポートが得られる環境」を望む割合が74%で、「ほかの児童・生徒と同様の教育環境」より高くなっています。

【問11で「1」～「9」とお答えの方】

問11-2 中学・高校などの卒業後の進路や生活はどのようにお考えですか。(○は1つ)

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 進学して勉強を続けたい	27	36%	8	42%	10	33%	8	36%
2. 職業などの訓練校に行きたい	4	5%	0	0%	1	3%	3	14%
3. 福祉施設や作業所などに行きたい	6	8%	0	0%	3	10%	3	14%
4. 一般の会社やお店などで働きたい	11	15%	2	11%	3	10%	5	23%
5. 家の仕事を手伝いたい	1	1%	0	0%	0	0%	1	5%
6. 施設などに入所して支援を受けたい	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7. その他	2	3%	0	0%	2	7%	0	0%
8. わからない	22	30%	8	42%	11	37%	2	9%
無回答	1	1%	1	5%	0	0%	0	0%
合計	74	100%	19	100%	30	100%	22	100%



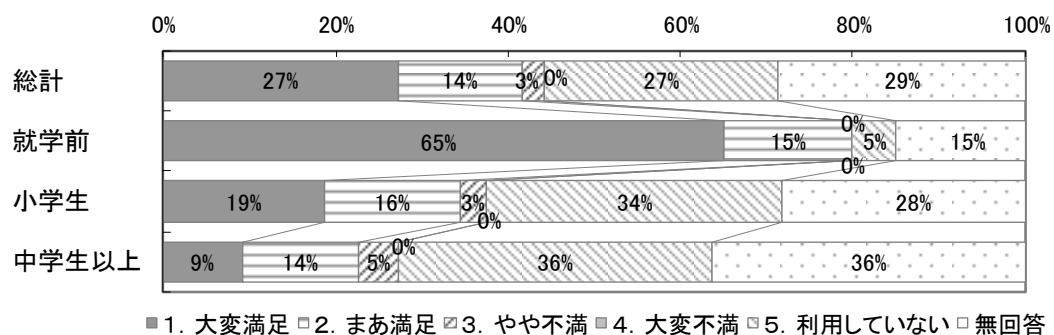
中学・高校などの卒業後の進路や生活については、「進学して勉強を続けたい」が36%、「一般の会社やお店などで働きたい」が15%などとなっています。中学生以上では、「進学して勉強を続けたい」が36%、「一般の会社やお店などで働きたい」が23%、「職業などの訓練校に行きたい」と「福祉施設や作業所などに行きたい」がそれぞれ14%などとなっています。

第4節 福祉サービスや情報・相談について

問12 お子さんは、次のサービスを利用したことがありますか。利用した際は、サービスに満足できましたか。①～③のそれぞれについて、お答えください。

①児童発達支援サービス

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 大変満足	21	27%	13	65%	6	19%	2	9%
2. まあ満足	11	14%	3	15%	5	16%	3	14%
3. やや不満	2	3%	0	0%	1	3%	1	5%
4. 大変不満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5. 利用していない	21	27%	1	5%	11	34%	8	36%
無回答	22	29%	3	15%	9	28%	8	36%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%

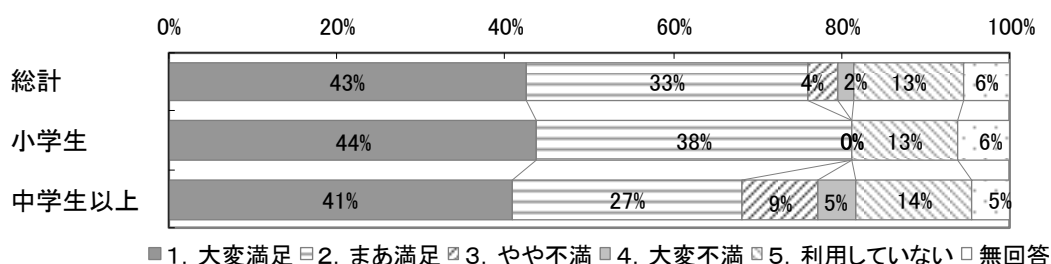


「児童発達支援サービス」は、就学前児童では20人中16人が利用しており、利用者の中で「不満」という回答はありませんでした。なお、この設問は利用した経験をたずねており、小学生や中学生以上の保護者も回答しており、そちらでは「やや不満」という回答もみられました。

②放課後等デイサービス

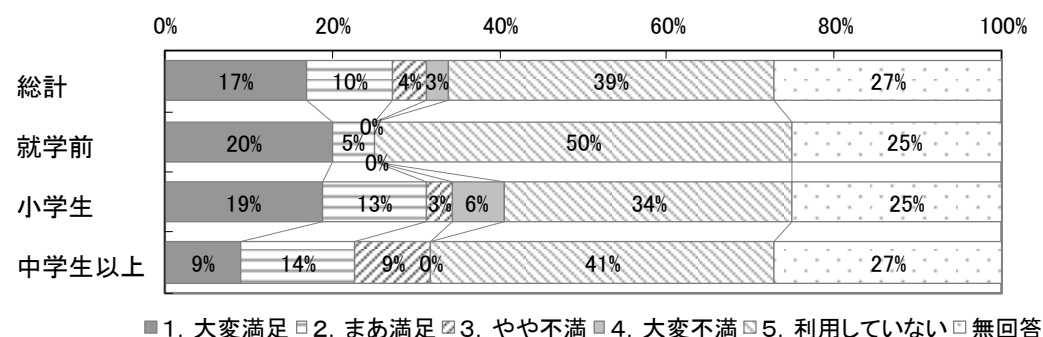
	総計		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 大変満足	23	43%	14	44%	9	41%
2. まあ満足	18	33%	12	38%	6	27%
3. やや不満	2	4%	0	0%	2	9%
4. 大変不満	1	2%	0	0%	1	5%
5. 利用していない	7	13%	4	13%	3	14%
無回答	3	6%	2	6%	1	5%
合計	54	100%	32	100%	22	100%

小学校以上の約4割が利用しており、「大変不満」や「やや不満」という回答もみられました。



③障がい児相談支援

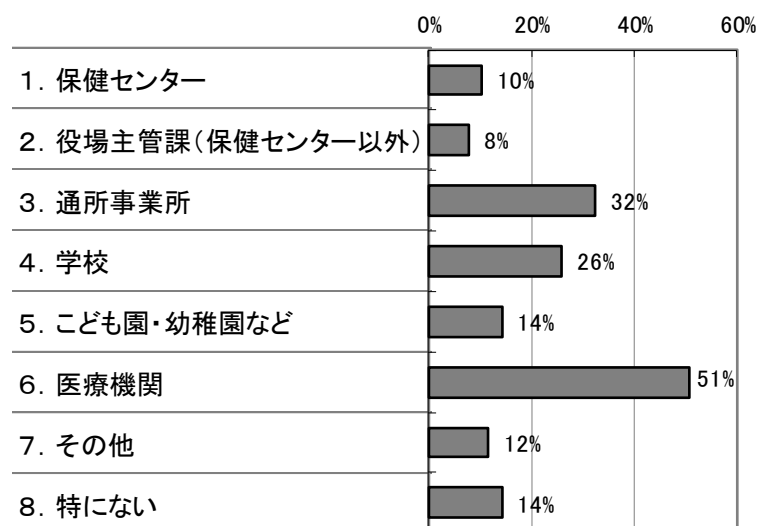
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 大変満足	13	17%	4	20%	6	19%	2	9%
2. まあ満足	8	10%	1	5%	4	13%	3	14%
3. やや不満	3	4%	0	0%	1	3%	2	9%
4. 大変不満	2	3%	0	0%	2	6%	0	0%
5. 利用していない	30	39%	10	50%	11	34%	9	41%
無回答	21	27%	5	25%	8	25%	6	27%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



「障がい児相談支援」の利用者は、就学前児童で3割弱、小学生で約4割、中学生以上でも約3割と少ない状況です。「大変不満」や「やや不満」という回答もみられました。

問 13 お子さんの障がいについて、気軽に相談できる機関はありますか（〇はいくつでも）

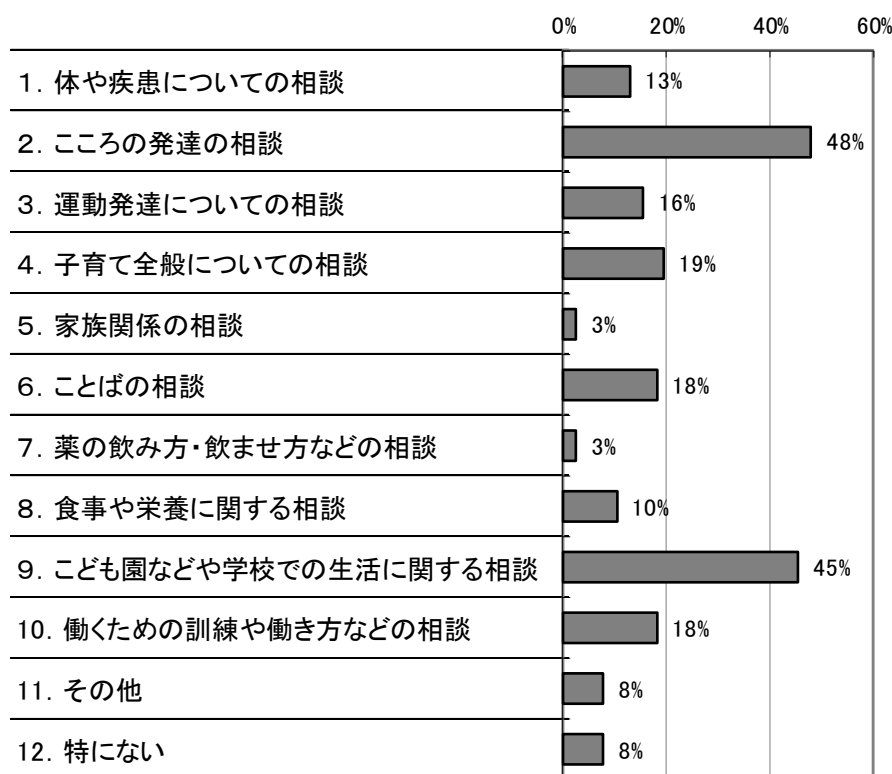
	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 保健センター	8	10%	7	35%	1	3%	0	0%
2. 役場主管課（保健センター以外）	6	8%	3	15%	1	3%	2	9%
3. 通所事業所	25	32%	12	60%	12	38%	0	0%
4. 学校	20	26%	0	0%	12	38%	7	32%
5. こども園・幼稚園など	11	14%	11	55%	0	0%	0	0%
6. 医療機関	39	51%	7	35%	14	44%	17	77%
7. その他	9	12%	1	5%	6	19%	2	9%
8. 特にない	11	14%	1	5%	5	16%	4	18%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



気軽に相談できる機関は、回答者全体では、「医療機関」が51%、「通所事業所」が32%、「学校」が26%などとなっています。就学前児童では「通所事業所」と「こども園・幼稚園など」が多く、小学生では「医療機関」と「通所事業所」と「学校」、中学生以上では「医療機関」が多くなっています。

問 14 お子さんについて、どのようなことを相談したいですか（〇はいくつでも）

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 体や疾患についての相談	10	13%	1	5%	7	22%	2	9%
2. こころの発達の相談	37	48%	4	20%	21	66%	12	55%
3. 運動発達についての相談	12	16%	3	15%	7	22%	2	9%
4. 子育て全般についての相談	15	19%	1	5%	12	38%	2	9%
5. 家族関係の相談	2	3%	0	0%	2	6%	0	0%
6. ことばの相談	14	18%	3	15%	9	28%	2	9%
7. 薬の飲み方・飲ませ方などの相談	2	3%	0	0%	1	3%	1	5%
8. 食事や栄養に関する相談	8	10%	4	20%	4	13%	0	0%
9. こども園などや学校での生活に関する相談	35	45%	13	65%	12	38%	9	41%
10. 働くための訓練や働き方などの相談	14	18%	1	5%	5	16%	8	36%
11. その他	6	8%	2	10%	2	6%	2	9%
12. 特にない	6	8%	0	0%	3	9%	2	9%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



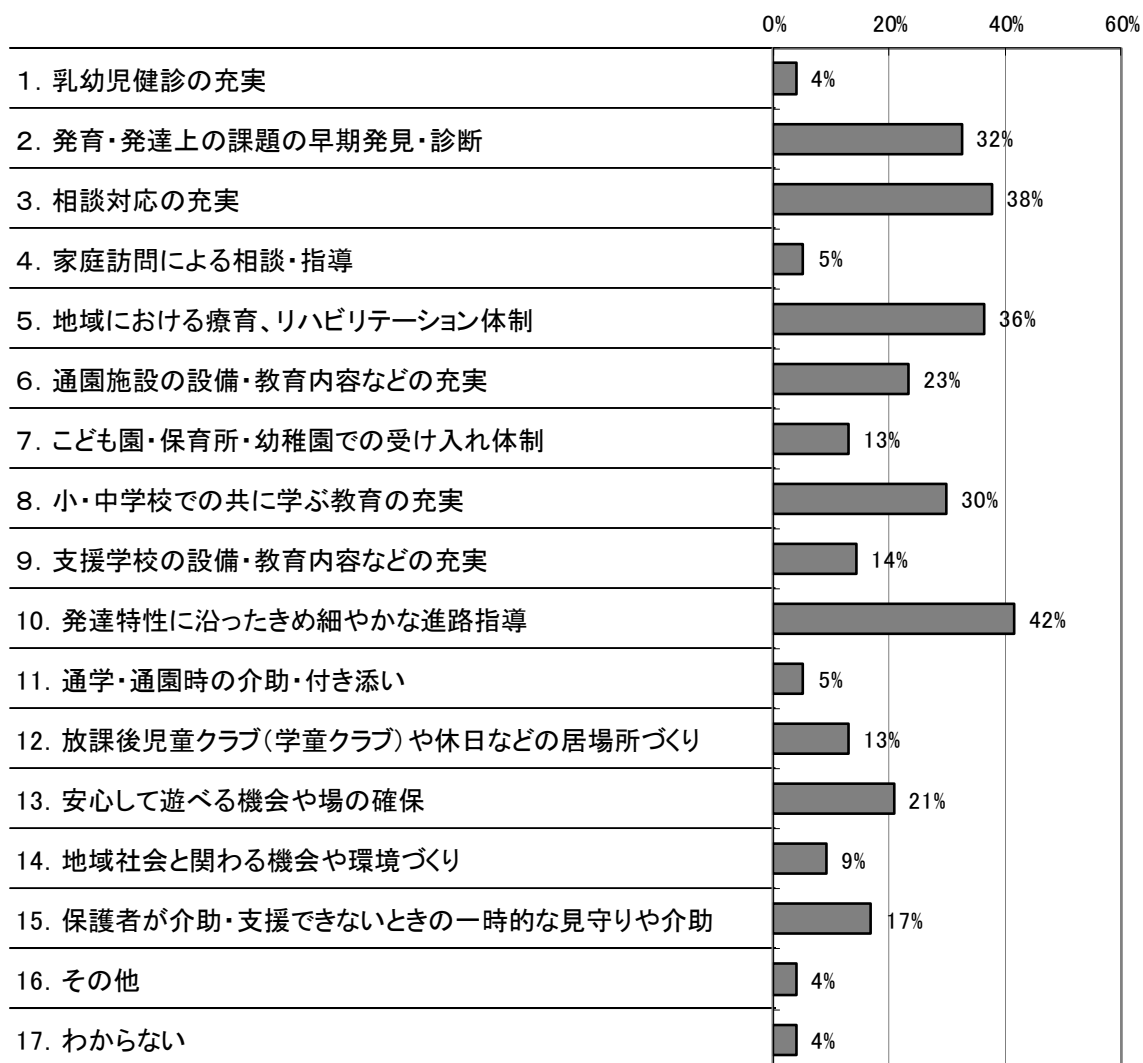
「相談をしたいこと」については、「こころの発達」が48%と最も多く、「こども園などや学校での生活に関する相談」が45%、「子育て全般についての相談」が19%と続いています。

特に、就学前児童については「こども園などや学校での生活に関する相談」が65%（20人中13人）となっており、これらのことで、保護者が悩んでいる状況がみとれます。

第5節 地域での暮らしについて

問15 発達に不安を持つ子どもが暮らしやすくなるために、特に重要と思うことは何ですか。(〇は3つまで)

	総計		就学前		小学生		中学生以上	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1. 乳幼児健診の充実	3	4%	1	5%	2	6%	0	0%
2. 発育・発達上の課題の早期発見・診断	25	32%	6	30%	10	31%	9	41%
3. 相談対応の充実	29	38%	8	40%	12	38%	8	36%
4. 家庭訪問による相談・指導	4	5%	1	5%	2	6%	1	5%
5. 地域における療育、リハビリテーション体制	28	36%	6	30%	17	53%	5	23%
6. 通園施設の設備・教育内容などの充実	18	23%	6	30%	7	22%	4	18%
7. こども園・保育所・幼稚園での受け入れ体制	10	13%	6	30%	2	6%	2	9%
8. 小・中学校での共に学ぶ教育の充実	23	30%	3	15%	10	31%	9	41%
9. 支援学校の設備・教育内容などの充実	11	14%	2	10%	5	16%	4	18%
10. 発達特性に沿ったきめ細やかな進路指導	32	42%	8	40%	12	38%	12	55%
11. 通学・通園時の介助・付き添い	4	5%	2	10%	1	3%	1	5%
12. 放課後児童クラブ(学童クラブ)や休日などの居場所づくり	10	13%	1	5%	7	22%	2	9%
13. 安心して遊べる機会や場の確保	16	21%	3	15%	11	34%	2	9%
14. 地域社会と関わる機会や環境づくり	7	9%	0	0%	3	9%	4	18%
15. 保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助	13	17%	2	10%	6	19%	4	18%
16. その他	3	4%	1	5%	2	6%	0	0%
17. わからない	3	4%	1	5%	1	3%	1	5%
合計	77	100%	20	100%	32	100%	22	100%



「発達に不安を持つ子どもが暮らしやすくなるために特に重要と思うこと」は、「発達特性に沿ったきめ細やかな進路指導」が42%で最も多く、次いで「相談対応の充実」が38%、「地域における療育、リハビリテーション体制」が36%、「発育・発達上の課題の早期発見・診断」が32%と続いています。「発達特性に沿ったきめ細やかな進路指導」は中学生以上で55%と割合が高く、「地域における療育、リハビリテーション体制」は小学生で53%と割合が高くなっています。

第3編 自由意見

第1章 自由意見のまとめ

自由意見を意見の主旨に基づき分類した結果は、以下のとおりです。複数の分類項目に該当すると考えられるものも、意見の主旨に沿い、いずれかの分類項目を充てています。
 なお、次ページ以降に、記述された全文として掲載します。【 】内は、回答者の属性です。

代表的な意見の内容

区分	分類項目	件数	代表的な意見
障がい者 用調査	1. 交流や居場所について	6	・ 同じ障がいを持つ方々との交流の場で、困りごとを話し合える機会を持ちたい。 ・ 引きこもりにならないよう、町内に居場所があるとよい。
	2. 福祉や医療のサービスの充実について	17	・ 個別の状況にあわせて福祉サービスの一層の充実を。
	3. 移動について	12	・ 移動に関する支援の充実を。
	4. 物価高騰対策など経済的支援について	6	・ 食料品の価格高騰などで生活が苦しい。
	5. 行政窓口や情報提供について	10	・ 役場の対応がよい（よいという意見と悪いという意見が両方あり）。
	6. 生活上の悩みや不安について	16	・ 親亡き後の将来が不安。 ・ 介助する家族に対する職場の理解がない。
	7. その他	4	—
	件数合計	71	
子ども 用調査	1. 就学前児童（の保護者）の意見	7	・ 発達に関する相談支援がありがたかった。（ありがたかったという意見と、もっとしっかりしてほしいという両方の意見あり。）
	2. 小学生（の保護者）の意見	12	・ より一層、きめ細かな特別支援教育を進めてほしい。 ・ 学校と放課後デイ、家族の三者の連携が重要。
	3. 中学生以上の子ども（の保護者）の意見	5	・ 中学生以上になっても、きめ細かな発達支援、学習支援を進めてほしい。 ・ 高校を卒業した後の将来が不安。
	件数合計	24	

第2章 障がい者用調査での意見

■最後に、日頃お困りになっていることや、ご意見やご要望などを自由にお書きください。

障がい者用調査の自由意見の記載内容は以下のとおりです。【 】内に、回答者の年齢、性別、障がい区分を記しています。

1. 交流や居場所について

- ◆忠岡町内のさまざまな年代の方々と、お茶やコーヒーを飲みながら、会話を通じてコミュニケーションを図れる機会を希望します。町会議員の方々と、年に1～2回程度は、町長にも参加していただき、気軽に、意見交換できる場を、設けていただければと思います。【身体障がい・50代・男性】
- ◆私自身も、病気をきっかけに、障がいを持つこととなり、それまで、知らなかったことが多くありました。ヘルプマークの意味や、障がいのある方の困難さを実感しました。福祉サービスには、大変お世話になっており、感謝しております。自身の経験から、健康診断の大切さや、障がいに関する知識を、広く共有できるような講演会やイベントがあれば、参加したいと思います。また、同じ障がいを持つ方々との交流の場で、困りごとを話し合える機会も、希望します。【身体障がい・60代・女性】
- ◆障がいのある方も、ない方も区別なく、人の役に立てる生きがいを持てる人生を。高齢だから仕方ないと諦めるのではなく、安全・安心だけでなく、その人らしい、一日の過ごし方を大切にしてほしいと思います。生きていることに意義を感じられる日々が、人生の最期にふさわしいものになりますよう、願います。盲導犬との触れ合いや、視覚障がい者の方々と、若い世代から高齢の方まで、交流できる施設訪問なども、検討していただければと思います。動物は、家族同然の存在です。別れの悲しみも、次の喜びへと変えていけますように。【身体障がい・80代男性】
- ◆小学校・中学校に専門の支援者がいれば良かったと思います。登校が困難な時期に、無理に通わない選択肢もありますが、将来、本人が自立して生活するためには、高等学校を卒業することが重要です。通信制高校で何とか卒業し、専門学校への進学と就職という目標ができ、現在、頑張っており取り組んでいます。障がいのある子どもたちも仕事ができる、という希望を持てるよう、小中学校の段階で、基本的な日常生活が送れるような支援が大切だと思います。不登校であった子どもすべてが、社会人になって就労していないわけではないと思いますが、教室に入りにくい時に、別室で授業を受けられる支援の場（必要な時にすぐ利用できるもの）や、対応できる教員の増加を希望します。多感な時期を支える教職員の指導力も大切であり、教職員自身の職場環境やケアが充実することで、子どもたちへの関わり方も変わると思います。保護者の側にも、考慮すべき点はあると思いますが、さまざまな要素がうまく機能すれば良いと感じています。【障がい区分不明・10代・女性】

- ◆町内に、居場所が欲しいと思っています。作業所等は概ね 15 時頃に終わるため、帰宅時間が早く、夕方に集まれる場所が必要です。また、体調不良以外の理由で、やむを得ず休まなければならない日に、気軽に立ち寄れる場所があれば、孤立を防ぐことができると思います。文化会館では、地域活動支援センターが月 2 回開放していますが、知らない方も多く、利用できる時間・回数も限られています。障がいの有無や、年齢に関わらず、子どもから高齢者まで、多様な人が同じ空間で過ごせる場所を、希望します。そこで、習い事やスポーツ、ゲーム、防災に関する活動などを、皆で一緒に行える環境があれば、と思います。【知的障がい・20 代・男性】
- ◆・本人が一人では外出することが難しいため、アンケートへの回答も、QRコードを読み込んで、スマートフォン等から入力できるような仕組みがあると、助かります（郵便ポストまで行けない状況であること、学習障がいにより記述が困難であることが理由です）。・自宅以外の居場所（人との交流、身体を動かす活動、学習、就労につながる場など）が充実していれば、本人の体調や、意欲に応じて、外出できるようになり、閉じこもりや、引きこもりの解消に、つながると思います。障がいのある方本人にとっても、支える家族にとっても、気軽に出かけられる場所や、相談できる場所が、必要だと感じています。【精神障がい・20 代・男性】

2. 福祉や医療のサービスの充実について

- ◆高い場所にある物を、下ろしたり、戻したりすることが困難です。一人暮らしであるため、こうした場面での、少しのサポートがあると助かります。できる限り、自分で対応するよう心がけています。【身体障がい・80 代・女性】
- ◆障がい者支援の充実を求めます。【身体障がい・60 代・男性】
- ◆盲ろう者への対応が可能な施設・サービス（グループホーム、就労継続支援 B 型、同行援護、居宅介護、相談支援）に、すべてお世話になっています。生活に関することや日常的な出来事など、細かな情報についても、触手話という、特別な技術を用いた 1 対 1 の通訳支援がなければ、理解することができません。グループホームのスタッフだけでは支援が十分でないため、同行援護や、居宅介護も必要です。もちろん、グループホームのスタッフには、食事の準備など、身の回りの世話もしていただいています。今後も、現在と同様の支援を継続して受けたいと思っています。将来的に、入院が必要になった場合も、触手話によるコミュニケーション支援を受けられるようにしてほしいと思います。同行援護や、ホームヘルパーの制度で対応していただけるのか、困難であれば、他の方法で、現在信頼している通訳の方に支援していただける仕組みを、整えてほしいです。現在は元気ですが、入院や他施設への入所となった際にも、これまで支援をお願いしてきた、コミュニケーションが十分に取れる信頼できる方に、継続して支援していただけるかどうか、不安に思っています。【身体障がい・60 代・男性】
- ◆母の過去のことになりますが、介護認定の決定に、時間がかかりすぎることで、また、認定基準が厳しすぎると感じました。認定が下りるまでの待機期間が長く、後悔が残っています。こちらの知識不足もありましたが、少しでも、元気なうちに自宅に帰れたのではないかとすると、

申し訳ない気持ちでおります。ようやく、自宅に戻った母の弱り切った姿を見て、障がいのある娘が、大きなショックを受けました。わずかな日数でしたが、共に過ごすことはできました。状況に応じて、迅速な認定判断が行われる仕組みを、整えていただきたいと思います。大変なご負担をおかけしますが、私どものような事例が繰り返されないよう、どうぞよろしくお願いいたします。残された娘は、現在、母の弟である叔父（80歳）と同居しており、身体に障がいがあります。60歳であるため、高齢者施設ではなく、障がい者施設しか利用できず、現在、通所している施設では話せる方も少なく、本人は週1回の通所で十分と言って、入所は希望していません。今のところ、問題はありますが、今後、叔父とどのように生活していくかについて、不安があります。また、叔父本人が今後どうしたいのかを、なかなか話してくれず、対応に困っています。【身体障がい・60代・女性】

- ◆電動車椅子では、室内での移動が難しく、また、玄関での怪我也懸念されます。入院した場合には、ほぼ寝たきりになってしまうのではないかと、心配しています。【身体障がい・年齢無回答・男性】
- ◆病院への付き添いの際、待ち時間が長くなると、本人が怒り出し、帰ると言い出すことがあります。【身体障がい・70代・男性】
- ◆病院によって、待ち時間が異なる場合があります。診察券を、早めに入れるなどしていますが、待ち時間が長く大変です。どこでも、予約制が整備されると大変助かります。【知的障がい・30代・男性】
- ◆現在は、精神障がいにより、福祉サービスを利用していますが、身体的な状態も、徐々に悪化しており、動くことが、大変になってきています。通院を続けていますが、なかなか改善しない状況です。サービスのさらなる充実を、望んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。【精神障がい・50代・女性】
- ◆ホームヘルパーのサービス（主に土日、週1回、自宅の清掃）を、利用していますが、なぜか自宅内の物が見当たらなくなったり、所在がわからなくなることがあります。後から見つかる場合も多いですが、わからないままのこともあります。【精神障がい・50代・男性】
- ◆最近、入院のたびに入院セット（おむつ類を含む）の申し込みを勧められますが、そのセットの費用が、入院費を上回ることがあります。おむつ等は高額になるため、交通費を考慮しても、自宅から送付する方が、安く済む場合があります。下着・タオル・バスタオル・パジャマ等の初回セットは、大変助かりますが、費用面については、整理が必要だと感じています。【重複障がい・60代・男性】
- ◆外出先で声をかけられても、手術により、発声ができないため、相手に気づいてもらえない場合に非常に困ります。【重複障がい・50代・女性】
- ◆お世話になり、ありがとうございます。引き続き、この町で暮らすために、子どもから高齢者まですべての方にやさしい福祉の充実をお願いいたします。「子供叱るな自分も来た道 年寄り笑うな 自分も行く道」【障がい区分不明・50代・女性】

- ◆・妻が大腿骨を骨折し、119番通報にて、府中病院へ入院・手術となりましたが、術後の経過が思わしくなく、6年が経過した現在も、いまだに痛みが続いています。泉大津市に、大きな病院が開設されましたが、複数回受診したものの、旧府中病院から引き継いだ職員の対応に、問題を感じています。・選挙において、20億円が忠岡町にあると聞いています。「町民の皆さんに喜んでいただけるよう、活用したい」とおっしゃっていた町長の言葉がありましたが、給付金の支給もなく、目立った施策が何一つ実施されていません。高齢者が喜べる取り組みを、ぜひ、検討していただきたいと思います。・国の総理大臣についても、言動に、不安を感じる場面が、あります。忠岡町の職員の皆さんは、良い方ばかりだと感じています。ぜひ、町長にもお伝えください。給付金の受給対象者が、人口の7%いるとのこと。ご検討をお願いいたします。【障がい区分不明・70代・女性】
- ◆精神障がいとは、治ったと思っていても症状が再発しやすく、重症時には、独語や一人笑いを繰り返すことがあります、近隣の方が、不安を感じることもあります。包丁を持って、暴れることもあり、そうした際に、施設で受け入れていただけることが、最も助かります。【重複障がい・50代・男性】
- ◆A型就労支援事業所に勤務しております。今後、A型事業所から一般就労へ移行しやすい環境が整っていくことを、希望しています。もちろん、自分自身も、一般就労を目指して取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。【障がい区分不明・40代・男性】
- ◆忠岡町内の相談支援事業所は、平日は開いていますが、土日は閉まっているため、話し相手がいません。土日でも開放していただければ、利用が増えると思います。【知的障がい・40代・女性】
- ◆忠岡町の障がい福祉サービスは、他市町村と比較して少ないと感じており、充実させていただきたいと思います。障がいに関する、講演会等の開催もあると良いと思います。また、忠岡町のウェブサイトや窓口での情報提供がわかりにくい点があるため、広報紙への掲載等も検討いただければと思います。【精神障がい・30代・男性】

3. 移動について

- ◆あまり、利用する機会はありませんが、福祉タクシー助成金を利用しようと電話すると、断られることがあります。困った際に、利用するためのサービスのはずですが、なぜ、断られるのか理解できません。【身体障がい・80代・女性】
- ◆透析治療のため、高石市の医療機関へ通っていますが、バスが利用できず困っています。【身体障がい・70代・男性】
- ◆通院時にも、ガイドヘルパーによるサポートを利用できるようにしてほしいと思います。【身体障がい・70代・女性】
- ◆とにかく、段差の問題が深刻です（車道と歩道の間）。40～50代の健常な男性からも、同様の意見を聞きました。なぜ、あのような道路構造になっているのか、理解できません。例えば、

府道堺阪南線において、自転車での走行時に、歩道と車道（自転車道）の間の移動が危険で困っています。【身体障がい・70代・女性】

- ◆通院の際に利用するタクシーがなかなか手配できません。電話が繋がらないことや、つながっても時間がかかることが多く、本当に困っています。福祉タクシーの整備を強く求めます。【身体障がい・年齢無回答・男性】

- ◆一人暮らしのため、雨の日の買い物が不便です。【身体障がい・80代・男性】

- ◆さつき通の歩道の凹凸を、補修していただきたいと思います。議会傍聴の際に、議員の方々が、繰り返し質問されていますが、なぜ、役場は対応しないのでしょうか。財政上の理由があれば、まだ理解できますが、財源があるにもかかわらず、対応されていないとすれば、町民として納得しかねます。【身体障がい・80代・女性】

- ◆・外出時に、介護保険でのサポートを受けられるようにしてほしいと思います。・外出時に、車椅子の貸し出しがあれば助かります。・災害時の避難方法について、不安があります。【身体障がい・70代・男性】

- ◆買い物等の際に、交通の便が悪いため、これまでタクシーを利用していましたが、デマンド交通の導入により、大変助かっていました。しかし、現在は、運行されておらず、ぜひ復活していただきたいと思います。【精神障がい・60代・女性】

- ◆タクシー助成券の枚数を、増やしていただきたいと思います（タクシー料金の値上がりに伴い、現在の枚数では、不足しています）。また、民生委員の選定については、より慎重に行っていただくよう要望します。【身体障がい・70代・男性】

- ◆・このアンケートは、難しい内容です。・移動が困難な方でも相談しやすいよう、訪問による相談支援の担い手がいれば良いと思います。【身体障がい・80代・男性】

- ◆このアンケートは、紙への記入ではなく、QRコードを読み込んで、デジタル入力できる形式にしていきたいと思います。障がいによって、紙がまぶしく、読むことが困難です。外出時にタクシーを利用できる支援制度（例：1か月1万円程度で利用できる定額サービス等）があれば、大変助かります。自立支援医療以外にも、活用できる制度の充実を希望します。【障がい区分不明・20代・女性】

4. 物価高騰対策など経済的支援について

- ◆困っていることは食料品の価格高騰です。給付金等の対応を検討していただきたいと思います。【知的障がい・50代・男性】

- ◆装具の価格が、上昇しているため、日常生活用具給付における公費負担額を引き上げていただきたいと思います。他の自治体では、引き上げが行われていると、聞いております。【身体障がい・50代・女性】

- ◆年金額が少なく、毎日の生活が苦しい状況です。消費税の負担も大きく感じています。【身体障がい・80代・性別無回答】

- ◆国からの収入（給付金等）を、増やしてほしいと思います（大人に対しても）。子どもだけでなく、大人への支援も充実させてほしいです。【知的障がい・20代・女性】
- ◆サービスの種類を、もう少し増やしていただきたいと思います。例えば、各種店舗での割引制度などがあれば、助かります。【知的障がい・30代・男性】
- ◆精神障害者保健福祉手帳3級を取得しています（双極性障がい）。気分の波が激しく、家族も対応に、苦慮しています。金銭管理が自分ではできず、高額な借金を繰り返してしまい、家族に多大な迷惑をかけています。双極性障がいにより生じた借金について、何らかの制度的な対応が、できないでしょうか。現状では、家族にすべてが降りかかり、大変な負担となっています。金銭管理が困難な場合に、自動的に歯止めをかける法律や仕組みがあればと、切に思います（一つのことに集中してしまうと、自制が利かなくなります）。家族の負担を、軽減するための制度的な支援を強く希望します。【精神障がい・50代・男性】

5. 行政窓口や情報提供について

- ◆私は役場へは、ほとんどかがう機会がなく、各課の配置がわかりませんでした。先日、初めて、身体障害者手帳の交付手続きの際に、福祉課を訪問しました（息子が付き添いました）。職員の方に、丁寧に、わかりやすく説明していただき、大変ありがたく感じました。役場に対して抱いていた印象よりも、ずっと親切な対応で、安心いたしました。今後も、たびたび、ご相談にうかがうことが、あるかと存じますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。【身体障がい・80代・女性】
- ◆忠岡町の福祉には、大変、感謝しております。できる限り、現在の生活を、長く続けられるよう、願っておりますが、自力での生活が、困難と判断した際には、相談できる行政窓口があることを、大きな心強さとして感じています。ありがとうございます。【身体障がい・80代・男性】
- ◆①忠岡町では、一人暮らしの身体障がい者に対して、紙おむつ代の補助がありません。家族と同居している方には、家族支援として、支給されていますが、一人暮らしであっても、紙おむつは使用しており、ヘルパーや訪問看護師も、交換を行っています。実態は、家族と同様であり、近隣市では、本人宛に支給されていると聞いておりますので、忠岡町でも、同様の対応を、ぜひ、お願いしたいと思います。②さつき通り、役場側から東側の歩道が傷んでおり、車椅子での通行が、困難です。③福祉バスは構造上、車椅子利用者が、一人では乗車できない車両となっています。④職員数が不足しているためか、最近は、窓口対応や、特に電話対応が、雑に感じられます。「多忙のため折り返す」と言われ、1時間以上待っても連絡がなく、再度、こちらから電話したにもかかわらず、また「折り返す」と言われ、20分後に、ようやく、連絡があったという経験が最近ありました。【身体障がい・60代・女性】
- ◆町に相談した場合、制度の対象外であれば、それ以上の対応が難しいというケースが、多く見受けられます。柔軟かつ、親身になった対応、「まるで家族のことを考えるように」より良い方向を一緒に模索するという姿勢が、感じられないことがあります。特に、福祉の分野において

は、形式的な対応では、不十分ではないかと思います。改めて、町役場を支えているのは、町民である、という認識のもと、対応・対処いただきたいと思います。【身体障がい・50代・男性】

◆選挙の投票について、自分で記載して、郵送できる仕組みがあればと思います（家族が投票所へ連れて行ってくれないため）。【身体障がい・70代・女性】

◆・福祉手帳の更新時期の通知がなく困っています。・講座やイベント等をより充実させてほしいと思います。【精神障がい・30代・女性】

◆日常生活の中で、行政サービスや地域環境に関して、不便・不安を感じる場面が多くあります。安心して暮らせる地域となるよう、いくつかの意見・要望を申し述べます。・役場へ相談した際、事務的で、冷たく感じる対応を受けた経験から、相談しにくさを感じています。対人不安のある方でも、安心して相談できるよう、職員への障がい理解のための研修の充実等、ソフト面での、バリアフリー化を希望します。・交通の便が悪く、隣町への移動が困難で、特に悪天候の日は大きな負担となっています。車を持たない方にとっては、深刻な問題であり、近隣市町への、バス路線の整備を強く希望します。・指定ごみ袋の値上がりや、品質低下により、生活負担が増していると感じています。無料化でなくとも、適正な価格設定への見直しを、検討していただきたいです。また、粗大ごみの申し込みや、処理券の購入手続きが、わかりにくく不便です。ネット申請や、オンライン購入など、利用しやすい仕組みの整備を、希望します。・駅前駐輪場の整備が長期間進まず、慢性的に利用しにくい状況が、続いています。管理体制にも、改善の余地があると感じており、運営方法の見直しと、早急な整備を求めます。・これらの点について、利用者の立場に立った、改善が進むことを、期待しています。誰もが安心して暮らせるまちづくりに、つなげていただければ幸いです。【精神障がい・30代・男性】

◆①忠岡町に2011年に転入して、15年が経ちますが、役場の担当部署から、精神障がい者本人へ、各種のお知らせや行事の案内、生活状況の聞き取りを、個別に受けたことは、一度もありません。②福祉に関する、年次計画の策定期間に合わせて、障がい者の状況や意見を聴取し、計画書に文言を盛り込むだけに、とどまっているのではないのでしょうか。③令和6年11月に和泉保健所が窓口となり、統合失調症のある方の家族向けの家族教室が開催されたため、参加しました。高石市・泉大津市・和泉市内の家族会の紹介がありましたが、忠岡町内には見当たらないようでした。単に、人口が少ないからということで済ませるべき問題ではないと思います。実態を調査し、障がい者手帳所持者の状況を把握したうえで、近隣市の事例も参考にしながら、具体的な支援の方向性を検討し、行動に移していただくことを求めます。文章上の羅列だけでは、まさに絵に描いた餅です。職員の皆様には、ぜひ実際に動いていただくようお願いいたします。【精神障がい・40代・男性】

◆深夜に、中学生と思われる若者が騒いで、眠れない状況が続いており、警察に連絡しても改善されません。すぐに集まって騒ぐため、保護者を呼び出して引き取らせるなど、何らかの対策を講じていただきたいと思います。【障がい区分不明・40代・男性】

- ◆本町において、国や都道府県（市町村）からの、各種給付金等の支給が、他市町村と比べて遅いのは、なぜでしょうか。また、各課の職員が、業務に集中できていないように見受けられる場面があります。さまざまな相談にうかがっても、他人事のように受け流され、親身になった対応が、感じられません。【障がい区分不明・70代・男性】

6. 生活上の悩みや不安について

- ◆一人暮らしのため、車に乗れなくなった際や、パートの収入がなくなった際に、施設へ入居できるかどうか不安を感じています。費用の目安がわからず困っています。【身体障がい・70代・女性】
- ◆一人暮らしで、近くに親族がいません。金銭の管理を依頼できる方が、いない状況です。社会福祉協議会に相談したところ、認知症の診断がなければ対応できない、と言われました。【身体障がい・70代・男性】
- ◆自分で食事やトイレを済ませられるようになりたい、と思っています。以前のように自宅で仕事もしたいですし、文字も書けるようになりたいです。現在、通所と訪問によるリハビリに取り組んでおり、今後も継続していきたいと思っています。【身体障がい・70代・男性】
- ◆・歩行が困難です。・視力が低下しています。・聴力が低下しています。・頻尿があります。・入浴が大変です（一人で入っているため疲労感があります）。【身体障がい・90代・男性】
- ◆将来に不安を感じています。【身体障がい・60代・男性】
- ◆人工肛門を装着して6年になります。今後、自分でストマの交換ができるかどうか、不安を感じています。【身体障がい・80代・男性】
- ◆宗教団体による、嫌がらせに長年悩まされています。相談することで、何か改善されるでしょうか。障がい者への理解がまだ十分でないことが、背景にあると感じています。私には同居家族以外にも家族がいますが、会うことすらできない状況です。被害を受けているのは私だけではなく、家族も傷ついています。障がい者であるというだけで、またその家族であるというだけで差別を受けることは、大変つらいことです。【精神障がい・50代・女性】
- ◆このまま、生活が続いていくのかと思うと、何か物足りなさを感じる場合があります。【精神障がい・30代・男性】
- ◆配偶者との口論があると、気持ちが落ち込み、将来への不安も大きくなります。【精神障がい・30代・男性】
- ◆父が建てた家（大工でした）で暮らしていますが、築64年を経過しており老朽化が進んでいます。最期までここで暮らしたいと思っていますが、建物が持ちこたえられるか不安です。できれば80歳頃まで、父の建てたこの家で暮らし続けたいと考えています。【精神障がい・60代・女性】
- ◆・金銭の管理については、今も父に頼ることがあり、自分では浪費してしまいます。借金をするほどではありませんが、趣味や、リフレッシュのために使いすぎてしまうため、家計簿アプ

り等で、自省を試みていますが、支出をやめることができていません。改善したいと思っています。・現在は両親と同居していますが、将来に不安を感じています。両親は元気ですが、私はまだ無職で、自立した生活ができておらず、30代になっても、親に負担をかけています。社会復帰に向けて取り組むとともに、認知の歪みを修正し、他者を否定的に見る思考パターンをやめられるようにしたいと考えています。・20代前半でASDの診断を受けた際、社会的な成功や、結婚ができないと感じ、非常に不安でした。その頃は「なぜ生まれてきたのか」と考えることが、多くありました。現在は、就労継続支援B型に通う中で、承認欲求のために働こうとしていたことに気づきましたが、今後も生きていくためには、趣味や価値観を共有できる、他者とのつながりを求めてしまいます。承認欲求はまだありますが、今後は自分に合った、無理のない仕事をしていきたいと思っています。【精神障がい・30代・男性】

◆家族より：現在は、大きな不自由はありませんが、今後、両親の年齢的な状況が変化することへの不安があります。安心して暮らせる環境を、最も望んでいます。【重複障がい・60代・女性】

◆入院が必要になった場合、若い家族がおられません。毎日健康に気をつけ、食事にも十分注意しながら生活しています。膝の痛みにより歩行が困難で、自転車を利用していますが、膝への負担が非常に大きい状況です。【障がい区分不明・80代・女性】

◆アンケートの封筒が、介護施設から届いたため、当初は、夫のことについて回答するものと思い、途中まで夫の状況を記入してしまいました。息子3人が同居しているため、自分自身の介護については考える機会がなく、夫が1年2か月前に施設に入所してから、介護に関するさまざまな対応に追われる日々が続いています。現在93歳になる夫を支えることを、使命と感じており、自身の今後については、考えられない状況です。経済的な不安もあります。なかなか前に進めない日々を過ごしています。【障がい区分不明・70代・女性】

◆長年にわたり、心療内科に通院しており、日々生きにくさを感じている根本的な原因はわかりましたが、それを理解していても行動を変えることができず、無意識のうちに体が反応して、自分を犠牲にしてしまいます。幼少期からのトラウマが、長年にわたって残っており、手放すことができていません。それが原因で、関わりのある人との、つながりが途絶えることを極度に恐れ、不安が大きくなり、相手の顔色をうかがったり、相手を優先してしまいます。結果として、最も大切な、子どもとの時間を別のことに使ってしまい、エネルギーを消耗して、罪悪感を抱えたまま帰宅し、変わらない自分を責めて、涙が出てきます。また息苦しくなるという悪循環を、繰り返しています。セルフネグレクトに該当すると思います。自分を大切にすることができず、この1年間で大きな怪我を何度もしており、日常生活にも支障が出ていますが、どこに相談すれば良いかわかりません。子どもも反抗期の真っ最中で、精神的につらい状況です。【障がい区分不明・40代・女性】

◆介助する家族に対する職場の管理者・上司・周囲の理解が得られず、苦しい状況にあります。認知症もあり、週6日デイサービスを利用しています。それは障がいとして利用していないので、今回のアンケートに該当するのか、よくわからなかったのですが…。介助するものが私一

人なので、私の身にもしものことがあったら、といった不安や、症状が悪化したらどうしよう、と言った恐怖は、常にあります。また、仕事をしているのですが、仕事との両立の難しさを痛感しています。管理者、上司、周りの理解が、なかなか得られないことに苦しんでいます。日本の社会は、まだまだ遅れているように思います。【身体障がい・90代・男性】

7. その他

- ◆いつもお世話になっております。90歳になりましたが、皆さんに支えていただきながら、生活できていることに、深く感謝しております。本当にありがとうございます。【身体障がい・90代・女性】
- ◆身体障害者手帳5級を取得しており、膝関節の疾患のため、6か月に1度通院しています。どうぞよろしくお願いいたします。【身体障がい・80代・女性】
- ◆現在のところ困っていることはありません。【身体障がい・90代・男性】
- ◆私は外国人への嫌悪感（ゼノフォビア）を持っており、ヘイト的な感情に、近い状態になっています。その理由は、個人的なこと、国家的なこと、その他諸々が複合しており、何が根本的な原因なのかを、考えても答えが出ません。ヘイト感情を表に出せば、批判される時代のため、私は人と接することを避けるようになっています。外国人が、公共の場で目立つことが、私にとって、最大のストレスとなっています。役場で、国籍条項があるかどうかはわかりませんが、外国人が公務員になれる状況であれば、さらにストレスが増すと感じます。【障がい区分不明・40代・女性】

第3章 子ども用調査での意見

■最後に、日頃お困りになっていることや、ご意見やご要望などを自由にお書きください。

子ども用調査の自由意見の記載内容は以下のとおりです。

1. 就学前児童（の保護者）の意見

- ◆気軽に通院できる病院が少ない。療育や放課後デイサービスなどの施設は、たくさんあるのに、病院が少ないので通うのが厳しい。予約もすぐ取れなかったりするので、それを改善していただきたい。
- ◆将来、娘が社会で、どのようにつながっていけるのかが、大きな不安です。早い段階から、進路や自立支援について、具体的な情報や道筋を、示して頂ける体制を希望します。情報が少なく、何が最善か分からず、不安。情報提供がバラバラで、親が自分で調べないといけない。忠岡町にも、一人ひとりに対して成長に合わせた教育を行う保育園ができれば嬉しいです。堺市にある、ペガサス保育のようなものです。
- ◆保育園を、もっと理解のある施設にして欲しい。
- ◆忠岡町に、児童発達支援に力を入れている事業所が少なすぎる。（空くののに半年ほど待ち、別件のクレーム等をきっかけに、4月から移ることができたが、こちらの働きかけがなければ、叶わなかった）。町内に児童デイサービスが少ないので、先日の泉大津の事業所中心に行われた事業所紹介のように、町から誘致して行き、役場で事業所紹介兼相談会のような内容を、役場もしくは文化会館（アクセスの良さから、できれば役場）で、年1回でも行ってほしい。友人が児童発達支援事業所の管理者として働いており、スタッフとして以前の会に参加したことがあるそうで、「発達の相談」が多く、受給者証を持つ親子ばかりが参加して行ったわけではないようです。一つのイベントとして、外部の専門の方に話を聞いていただける機会も必要ではないかと思います。地域子育て支援センター → ほかに子との交流 → 発達相談、のパターンもよくある話だと思います。これまで通り地域子育て支援センターと町のつながりも、大切にしていきたいです。
- ◆他市町村にあって忠岡にないサービスが多々あると思うので、町単独での実施が難しければ、連携して利用できるようにしてほしい。児童発達支援センターも貝塚に有るが、少し遠く、通う理由が難しい面が少しある。
- ◆子どもが、発達障がいの可能性があるので、東忠岡こどもへの担任の先生のおかげでわかり、その後、役場の方の対応が丁寧で、早急にいろいろなことを手配してくれて、とても助かりました。親や身内じゃ気づかないことや、もしかしたら、そうなのかもと、思っただけでもなかなか行動に移せずにいました。ちゃんと第三者（子供の担任等または学校）が教えてくれることで、子どものためにと動けました。嫌がる親も、中にはいるかもしれませんが、私にはありがたかったです。要望があるとすれば、発達障がい等を相談する時、あまり人目のつかない

ところで相談できるとありがたいと思う親も、いるかもしれません。私自身は、特に他人の目を気にする方ではないので、困ることもなく大丈夫だったのですが、中にはやっぱり気にする人もいる気がします。いろいろな対応ありがとうございました。

◆周りの子に追いつけていないのですが、こども園の入園に挑戦します。

2. 小学生（の保護者）の意見

◆発達について気になった時、相談した時に、しっかりと、対応をしていただきたいです。幼児の頃の健診での相談でも、「特に異常なし」とされ、最後の時に、ようやく通っている園での発達検査をしてくれることになりましたが、その間、何度か園から、「この日はどうですか？」と聞かれましたが、結局、進まず、先延ばしでした。発達は約一年の遅れがあり、病院での相談の結果を持って、就学前相談にて、支援級や通級への入級も相談に行きましたが、「必要ない」などの返答をいただきました。しかし、入学してすぐに「通級へ通って欲しい」と担任の先生に言われ、さらに支援級にと進められてからも、最初に聞いていた通級の予定より随分と遅れました。

◆・近くに放課後リハビリを受けられるところがない（訪問看護もいっばいで受けられない。特にST）。・進路について相談情報を得るところがない（相談対応の充実、療育に詳しい方に気軽に相談できるとありがたいです（知識のある方））。・児童発達支援について（運転ができない等で貝塚にある児童発達支援センターにいけないひとについて）何か対応して欲しい。東忠岡こども園からバスを出すなど、校区外でも行きやすくしてほしい。よろしくお願いします。

◆小学校入学時に、支援学級か支援学校かを、みんな悩んでいると思います。それは、支援学級に挑戦したいが、失敗したら、支援学校が受け入れてくれるか、分からないからです。不可能なのか、基準を満たせば、受け入れてくれるのか、「失敗」した時に、どうすればいいのかを「見える化」してほしい。「失敗」とは、いじめや、全く学業についていけなかったときのことを指しています。

◆疲れた時に親が話を聞いてもらえる、休める環境があればと思います。進学や就労など、将来のことの情報を教えてもらえたらと思います。

◆小学校で支援学級を利用しているのですが、教師だけでなく、言語訓練の資格を持っている方が、在駐してくださると、ありがたいと感じます。個別支援という場を設けていただけていますが、もう少し、一人ひとりに合った理解しやすい方法で教えてもらえると、学力も伸びると思います。

◆通級を週に1回だけでなく、その子に応じて何回でも使えるようにしてほしい。

◆学校と放課後デイ、家族との三つの連携がうまくとれないのが現状であり、話し合いの場が持てず、情報の共有ができない。泉大津や和泉は、柔軟に対応してくれる学校もあるが、忠岡は二校とも拒否されます。移動支援を使うにあたり、児童は国内に限る等の制限をされてしまう部分を、もう少し幅を広げて欲しいです。家族ではない第三者との関わりを通じて、いろんなことを身に着けていくには、ある程度行動範囲を広げなければ、障がい児自身の気分転換や社

会のルール、知識を広げることに制限や限度があります。町内、国内で楽しめる場所が、正直どこにもありません。

- ◆療育手帳を持っていない。精神手帳を持っている子どもも支援学校へ通えるようにしてほしいです。
- ◆目の前の対応に手がいっぱい、日々過ごしています。もっと先のことを見越して考えなければいけないことは、重々分かっていますが、余裕がなく、子どもの将来が不安でしかありません。いずれは残して居なくなるので、そのことを考えると、頭が真っ白になります。もっとしっかりしなければと、今できることをしなければ、子供の将来がかかっていると、わかっているのに、心の余裕、時間の余裕、子どもの成長に伴う時々行動問題など、デイサービスさんがなければ、生活していけなかったと思います。発達障がいのお子さんが増えているので、デイサービスさん増えていますよね。けれど、本当にその事業所に子どもを任せて大丈夫なのかな？と、心配の親御さんも多いと思います。学校、デイケアなど、自分の目の届かない場所でのことは信用するしかなく、頭のどこかで「何か嫌な思いをしてないかな？」「ひどいことされてないかな？」と言葉で伝えることのできないお子さんをお持ちの親は、思っていると思います。
- ◆困っていることが多すぎて、何を書けばどう説明すればいいかも分からない。
- ◆友達との距離感が近く、相手への配慮ができない。感情のコントロールが難しい時がある。
- ◆最近私（親）に対する口ごたえがきつい。ひどい。

3. 中学生以上の子ども（の保護者）の意見

- ◆発達障がいに見えない我が子。その場合の親の対処法など、色々と相談できるところがあれば嬉しいです。
- ◆学習面での支援がなかなかないこと。もっと早く町で動いて欲しかった。
- ◆発達障がいのグレーゾーン、対人との付き合い方（人との距離感）で、もめたり、人に言われたことによる感情を、制御できずに発してしまう言葉（相手を傷つける言葉）がある場合、副薬の服用が本当に必要なのか？ 頻繁に起きているならまだしも、数ヶ月に1回起きている程度。こういうことを気軽に相談できる窓口がなく、親自身が先生や放課後デイ、学校の状況等の情報を収集し、判断しなければいけないのが現状だと思う。子が中学生で、発達障がいの悩みがある親のおしゃべり会等、子どもがある程度大きくなっても、役場として場を設ける等支援を行っていただきたい。
- ◆中学生になっても、勉強においても、もっとどのような子どもに対しても、学ぶ支援が必要だと思う。先生の数が少ないから、手が回らないというのも現実問題、今という時間しかないのか、手薄すぎて、困っている。途中からでも通級クラスなどを選ぶ制度もやはり必要だと思う。
- ◆高校を卒業した後の将来が不安。放課後デイより早く帰ってくるので、留守番ができず、母親が長い時間働くことができなくなる。作業所などの後に、利用できる放課後デイやヘルパーな

どがあれば助かります。余暇を楽しめる場所なども、もっと近くに増えるとありがたいです。家族と過ごす時間も大事ですが、たくさんの人といろいろな関わりを持って過ごしてほしい。地域で安心・安全に過ごせるように、障がいのある人たちが、利用できる場所がこれから増えていくことを願っています。